

2021年度

かくた版アクティブ・チャイルド・プログラム
調査報告書

| | |
|---|----|
| I .調査の概要----- | 3 |
| II .調査結果のサマリ----- | 5 |
| III .主な調査結果----- | 6 |
| (1) 運動・スポーツの好き嫌い----- | 7 |
| (2) 運動あそび出前講座参加前後の運動回数・時間の変化----- | 10 |
| (3) 運動あそび出前講座参加後の運動意向や気持ちの変化----- | 11 |
| (4) 運動・スポーツについて感じていること----- | 13 |
| (5) 家族との運動・スポーツ(保護者回答)----- | 16 |
| (6) 運動あそび出前講座参加後の家庭での子どもの変化(保護者回答)----- | 19 |
| (7) 運動あそび出前講座参加後の子どもと一緒に遊ぶ際の保護者の気持ちや内容の変化(保護者回答)- | 24 |
| (8) 講座参加後の保護者自身の運動に対する行動や意識の変化(保護者回答)----- | 28 |
| (9) 子どもが運動・スポーツをすることへの期待(保護者回答)----- | 32 |
| (10) 子どもの生活習慣と運動・スポーツ----- | 33 |
| IV .課題解決に向けた取り組みと今後の展開----- | 34 |

1. 目的:

角田市の幼児期の運動・スポーツに対する以下4つの課題解決に向けて2020年度から実施している「かくだ版アクティブ・チャイルド・プログラム」に取り組み、阻害要因や促進要因の仮説検証とともに、実施頻度や実施意欲の改善を目的とした

- ①昔と比べ運動をしない子、苦手な子が多く小学校以前の幼児期に二極化がみられる
- ②運動が苦手な子には丁寧な指導が必要で時間をかけて楽しみのある内容が求められる
- ③スポーツに親しむ家庭環境の醸成、保護者が過度に怪我を恐れる風潮がある
- ④日常の遊びにおいて身体を動かす機会の減少

2. 調査期間:2021年12月～2022年2月

3. 調査対象:宮城県角田市の保育所・幼稚園に通う4～6歳の園児とその保護者

4. 標本数:271組(542人) 有効回収数(率):219組(80.8%)

5. 調査方法:質問紙調査

調査票の配布は「運動あそび出前講座」に参加した保育所・幼稚園の園児・保護者に直接配布し、回答後保育所等にて回収を行った

2021年度調査回答者の属性(園児・保護者)

年齢

| | 度数 | % |
|-----|-----|------|
| 4歳 | 12 | 5.5 |
| 5歳 | 104 | 47.5 |
| 6歳 | 91 | 41.6 |
| 無回答 | 12 | 5.5 |
| 合計 | 219 | 100 |

性別

| | 度数 | % |
|--------|-----|------|
| 男 | 107 | 48.9 |
| 女 | 99 | 45.2 |
| 答えたくない | 2 | 0.9 |
| 無回答 | 11 | 5.0 |
| 合計 | 219 | 100 |

所属クラス

| | 度数 | % |
|------------|-----|------|
| 年中(4歳児クラス) | 103 | 47.0 |
| 年長(5歳児クラス) | 102 | 46.6 |
| 無回答 | 14 | 6.4 |
| 合計 | 219 | 100 |

子どもとの続柄(保護者回答)

| | 度数 | % |
|-----|-----|------|
| 父 | 10 | 4.6 |
| 母 | 207 | 94.5 |
| 祖母 | 1 | 0.5 |
| 無回答 | 1 | 0.5 |
| 合計 | 219 | 100 |

出前講座の実施は子どもの気持ちや、保護者の意識・行動に好影響

① 子どもの運動・スポーツ実施と気持ちの変化

2回目の実施となる2021年度の調査では、調査票回収率が80.8%と前回は大きく上回り角田市内の幼児(4、5歳児クラス)の運動・スポーツ習慣や意識、生活習慣、保護者の意識など、より実態に近いデータの収集ができた。2020年度調査と同様に、日常的に運動あそびを継続するような行動変容に至ったかを評価するためには、引き続きの事業展開やフォローアップが必要であるものの、運動あそび出前講座受講後の実施意欲や講座への参加希望は高い割合を示し、**本事業が子どもたちの運動・スポーツ実施に対する気持ちに好影響を与えていることが確認された。**(p.9~12)

出前講座前の実施頻度が高頻度のグループは低頻度グループよりも運動・スポーツに対してポジティブな感情を抱く割合が高い。また、運動・スポーツに対してポジティブな感情を抱く子どもは、ネガティブな感情を抱く子どもよりも運動・スポーツが好きな割合や講座参加後の気持ちの変化、実施意欲いずれも高い結果となった。**運動・スポーツに対するポジティブな感情は実施意欲などとの関連が確認された。**(p.13~15)

② 家庭での取り組みや保護者の意識や行動の変化

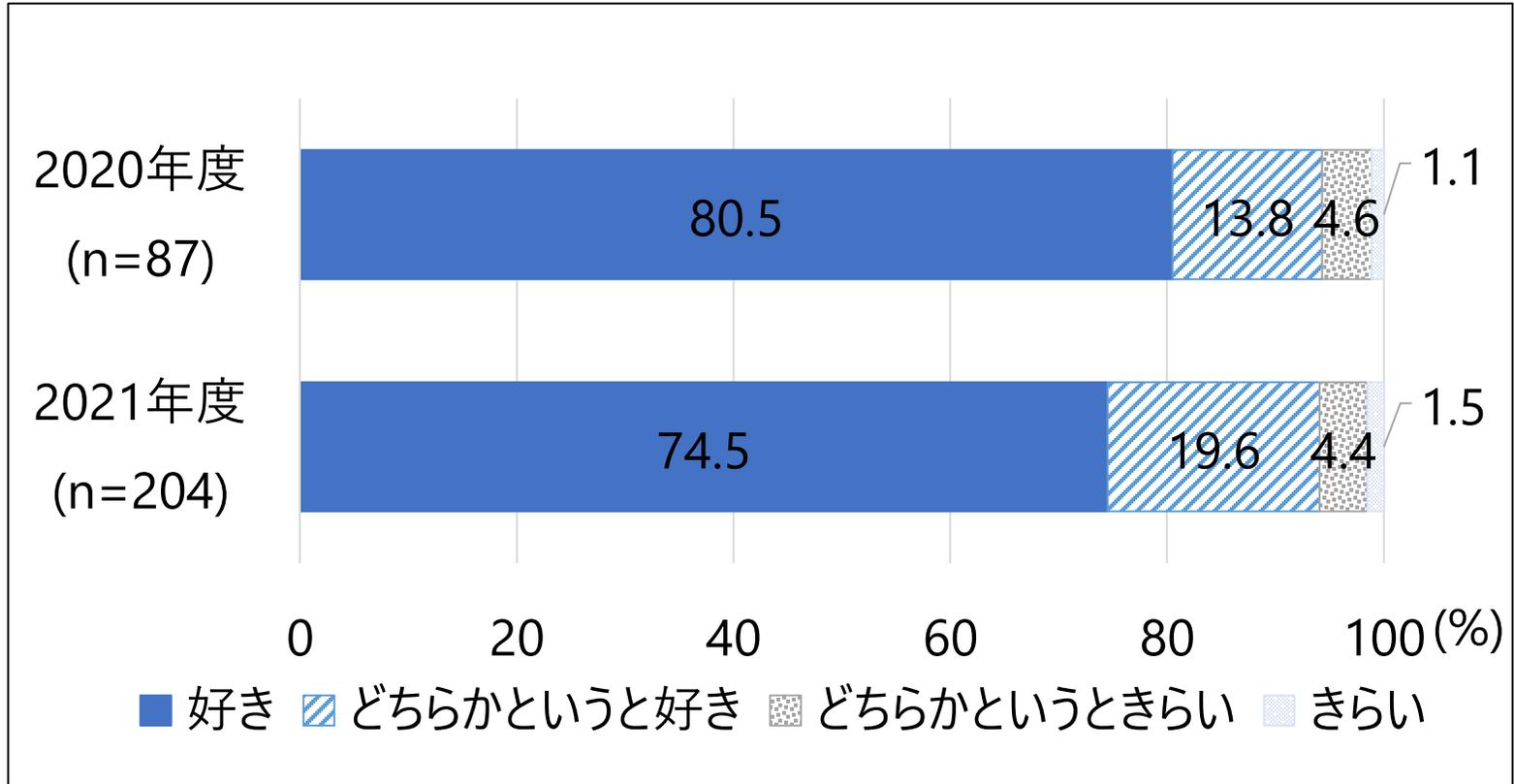
家族との運動・スポーツ実施状況は「よくしている」「時々している」を合わせた割合が2020年度調査よりも高い数値を示した。講座参加後の家族との運動機会は2020年度の「やや増えた」9.6%に対し、2021年度は「増えた」2.8%、「やや増えた」22.2%と昨年度よりも**講座の実施が家族との運動・スポーツ実施の増加に繋がったと考えられる。**(p.16~18)

2020年度調査よりも意識や行動に変化があった保護者の割合は高い値を示し、変化があった者は変化のなかった者に比べ、子どもが家族と一緒に運動・スポーツを実施、会話する機会が増加した。**講座の実施が保護者の意識等に変化をもたらし、家族との運動・スポーツに関するコミュニケーションの増加に寄与したと推察できる。**(p.19~31)

Ⅲ. 主な調査結果

(1) 運動・スポーツの好き嫌い

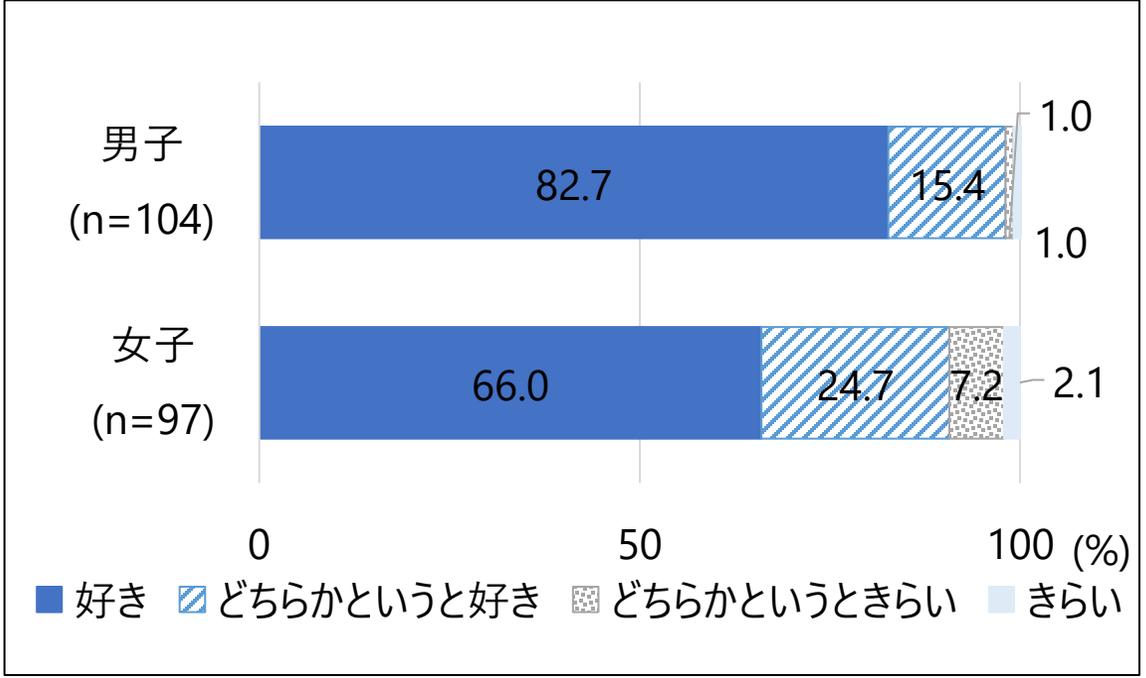
図表1 運動・スポーツの好き嫌い



2021年度の結果は「好き」74.5%、「どちらかという好き」19.6%、「どちらかという嫌い」4.4%、「嫌い」1.5%であった。「好き」と「どちらかという好き」を合わせた割合は2020年度94.3%、2021年度94.1%と2020年度同様にほとんどの子どもは運動・スポーツが好きと回答した。

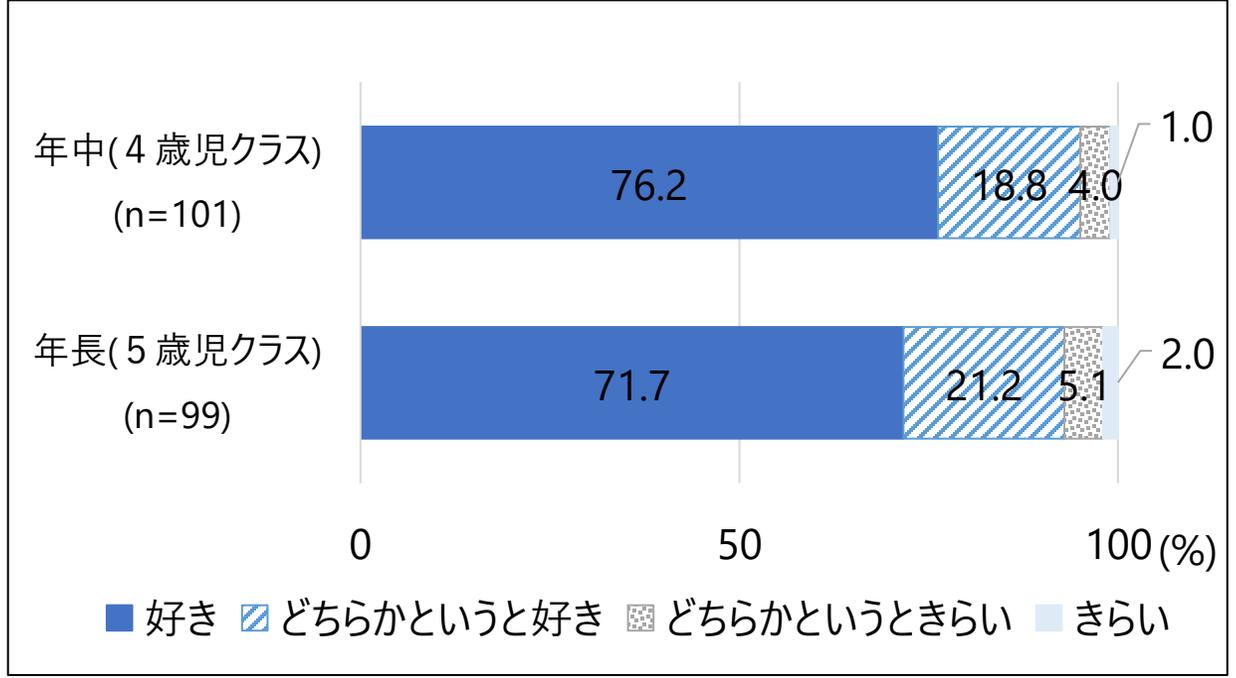
(1) 運動・スポーツの好き嫌い

図表2 運動・スポーツの好き嫌い(性別)



「好き」の割合は男子82.7%、女子66.0%であり、男子のほうが運動・スポーツ好きは多い。
 「好き」「どちらかという人喜欢」の割合を合わせると男子98.1%、女子90.7%と男女ともに9割以上は運動・スポーツが好きと回答した。

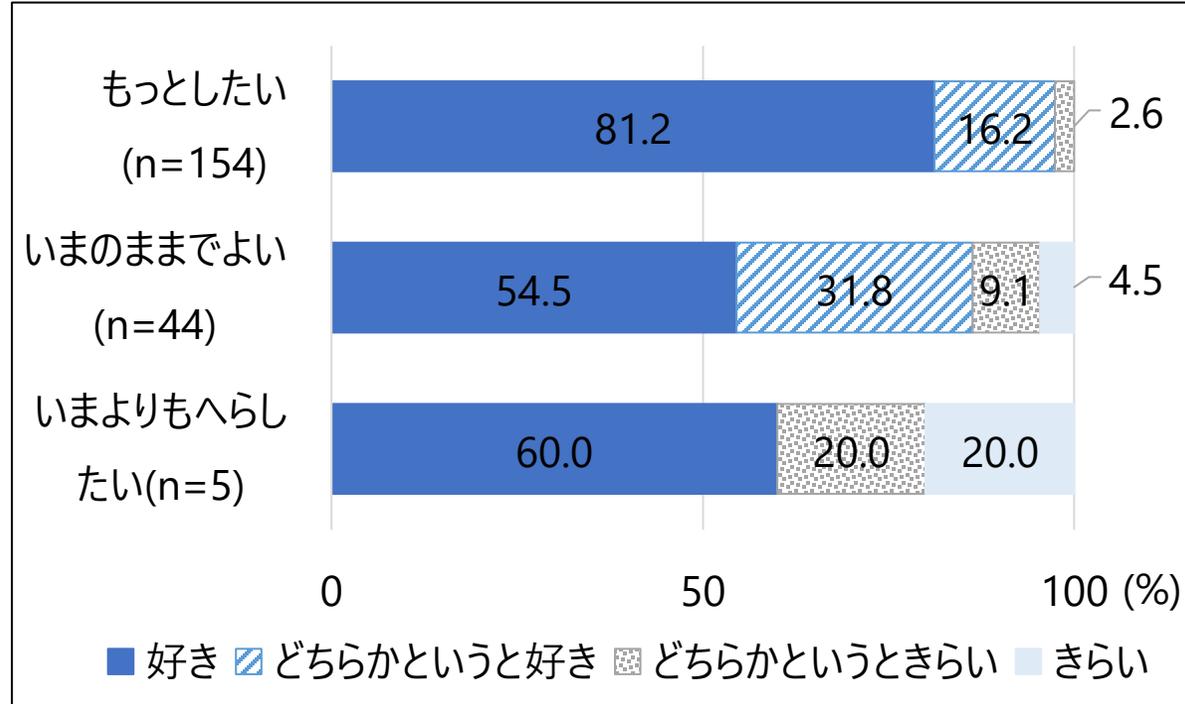
図表3 運動・スポーツの好き嫌い(クラス別)



「好き」「どちらかという人喜欢」を合わせた割合は年中(4歳児クラス)95.0%、年長(5歳児クラス)92.9%と両クラス9割を超え、クラスによる差はみられなかった。

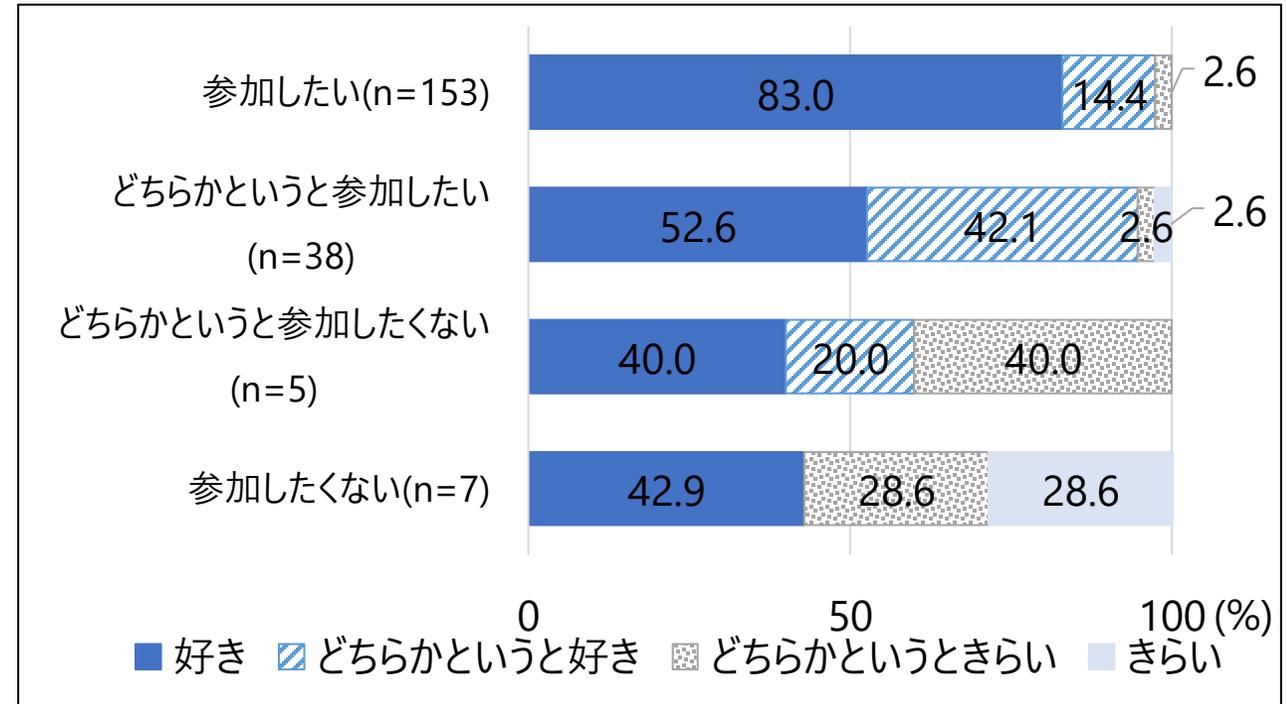
(1) 運動・スポーツの好き嫌い

図表4 運動・スポーツの好き嫌いと運動意欲



出前講座参加後に運動・スポーツを「もっとしたい」と回答した子どもの81.2%が「好き」と回答し、「いまのままでよい」54.5%、「いまよりもへらしたい」60.0%よりも高い割合を示した。

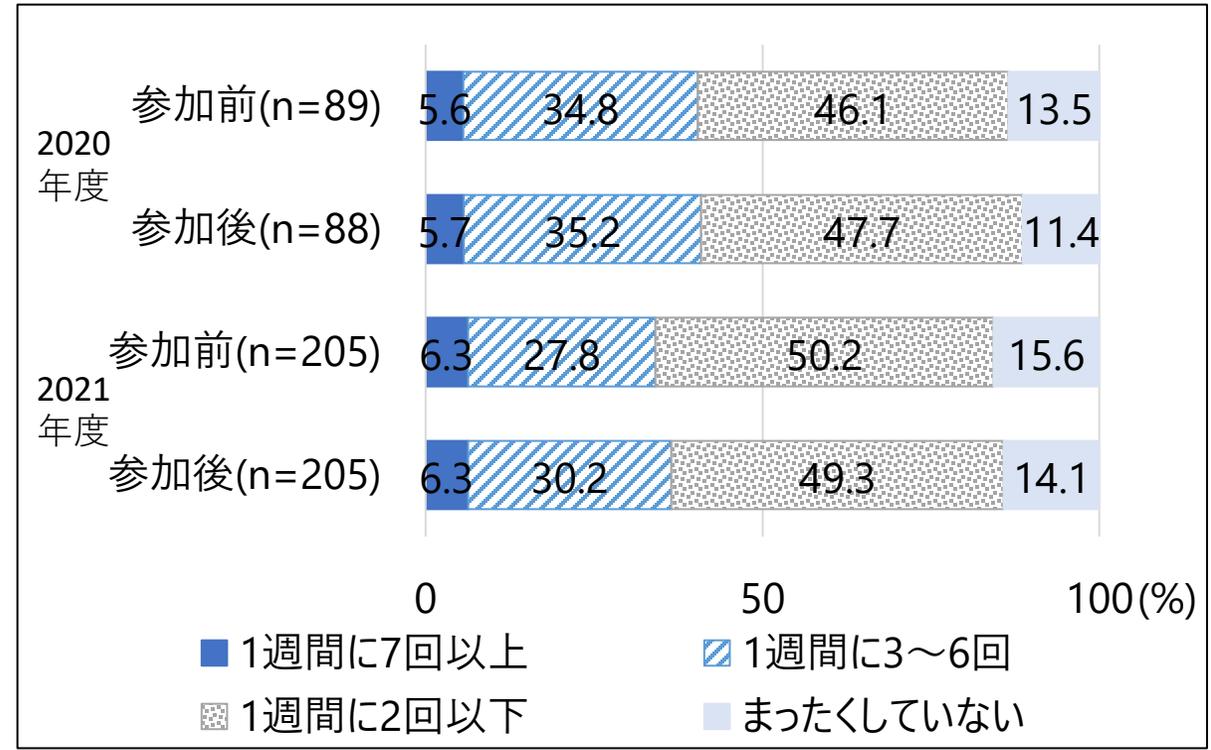
図表5 運動・スポーツの好き嫌いと講座への参加希望



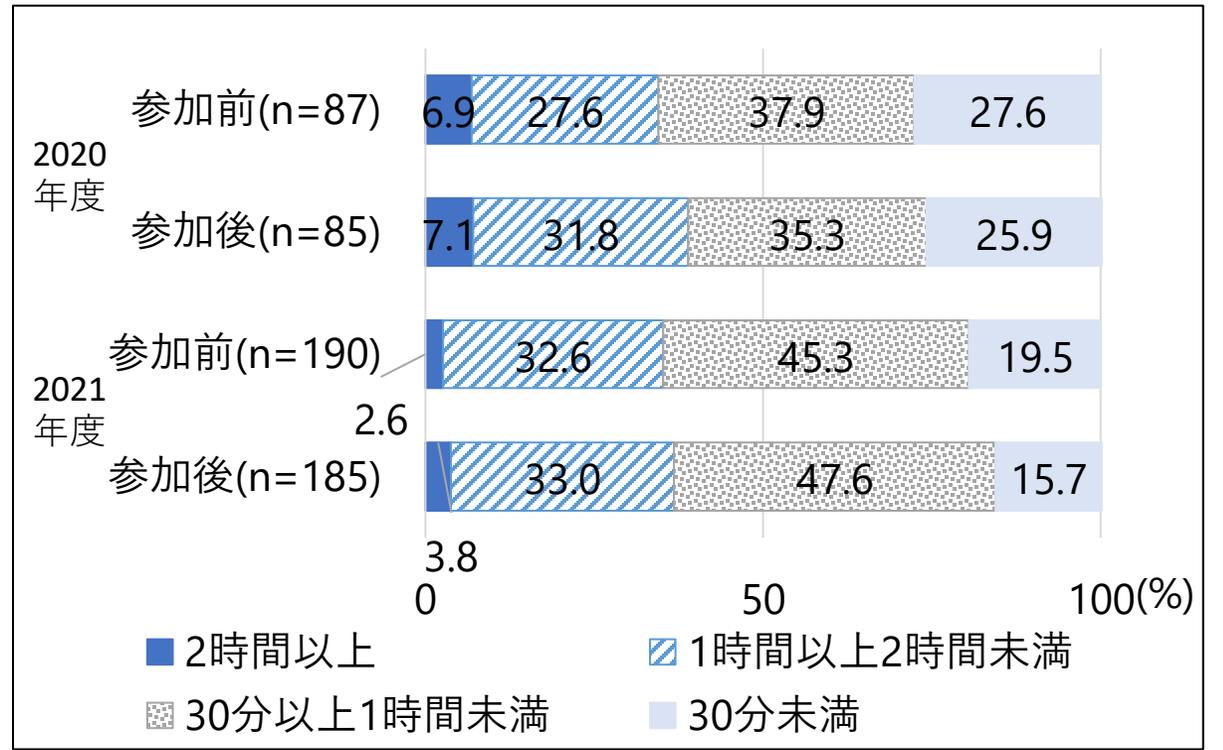
今後も出前講座へ「参加したい」と回答した83.0%が運動・スポーツが好きであり、「どちらかというときらい」52.6%、「どちらかというときらい」40.0%、「参加したくない」42.9%よりも高い割合を示した。

(2) 運動あそび出前講座参加前後の運動回数・時間の変化

図表6 講座参加前後の運動回数の変化



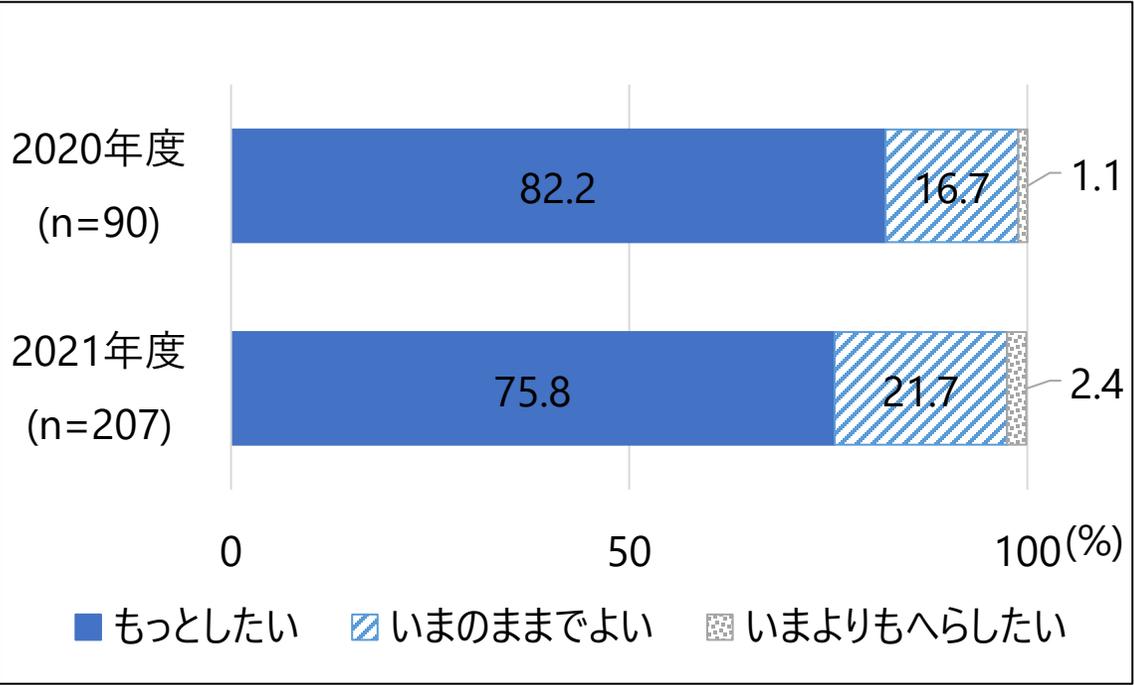
図表7 講座参加前後の運動時間の変化



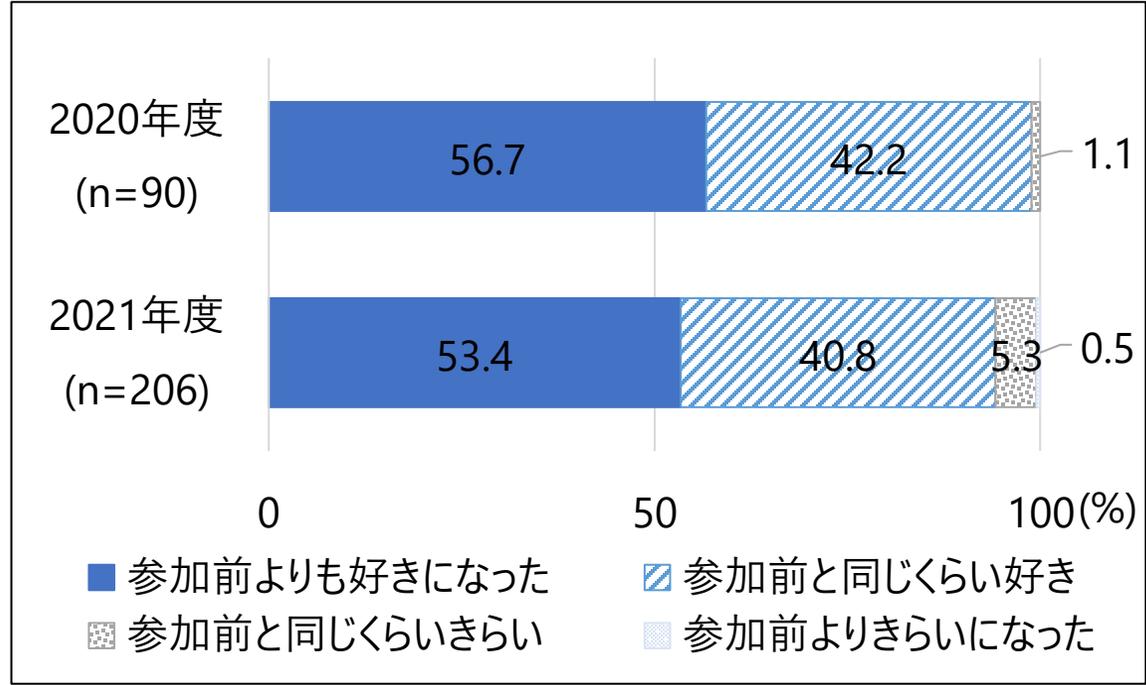
2021年度の運動あそび出前講座の参加前後の運動回数・時間の変化をみると、「1週間に7回以上」は参加前後ともに6.3%、「1週間に3~6回」は2.4ポイント増(27.8%→30.2%)と回数の増加はほとんどみられなかった。運動時間が「2時間以上」は1.2ポイント増(2.6%→3.8%)、「1時間以上2時間未満」は0.4ポイント増(32.6%→33.0%)と時間についても変化は確認できなかった。2020年度と同様に講座実施による園児の運動回数・時間の増加は確認できなかったため、引き続き行動変容に至るまでのサポートと追跡調査が課題となる。

(3) 運動あそび出前講座参加後の運動意向や気持ちの変化

図表8 参加後の運動意向



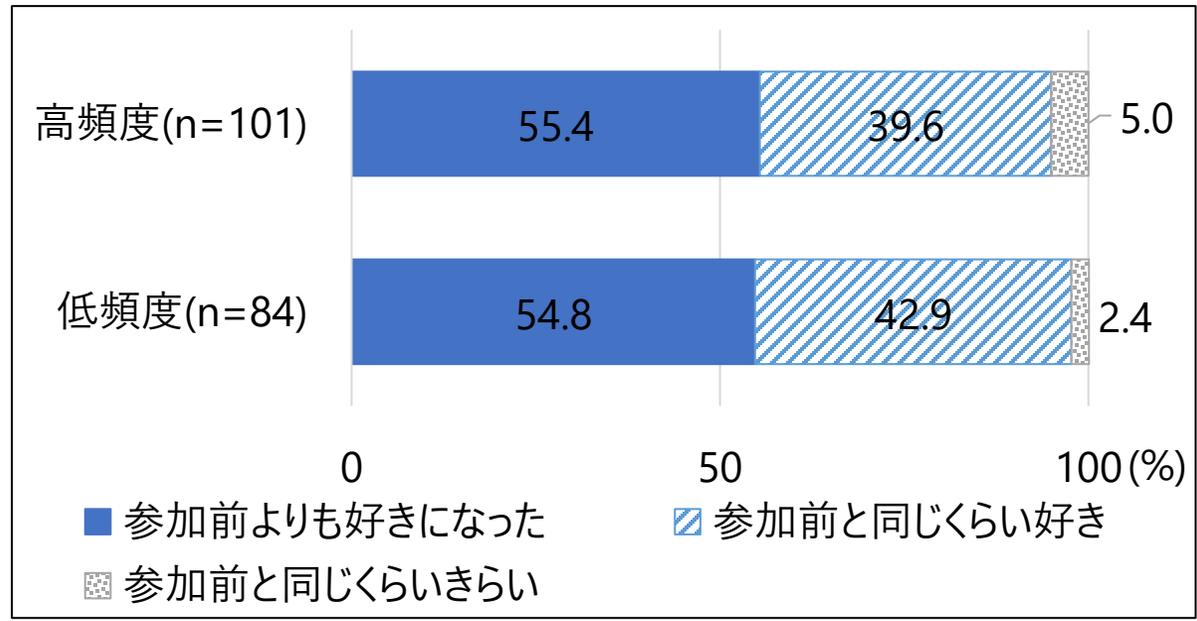
図表9 参加後の運動に対する気持ちの変化



講座参加後に運動・スポーツを「もっとしたい」と回答した割合は2020年度は82.2%、2021年度は75.8%と引き続き高い値を示した。また、気持ちの変化においても「参加前よりも好きになった」は2020年度、2021年度ともに50%以上を示し、「参加前と同じくらい好き」と合わせた割合は2020年度98.9%、2021年度94.2%と運動あそび出前講座の実施は園児の運動・スポーツへの参加意向や気持ちに好影響を与えている。

(3) 運動あそび出前講座参加後の運動意向や気持ちの変化

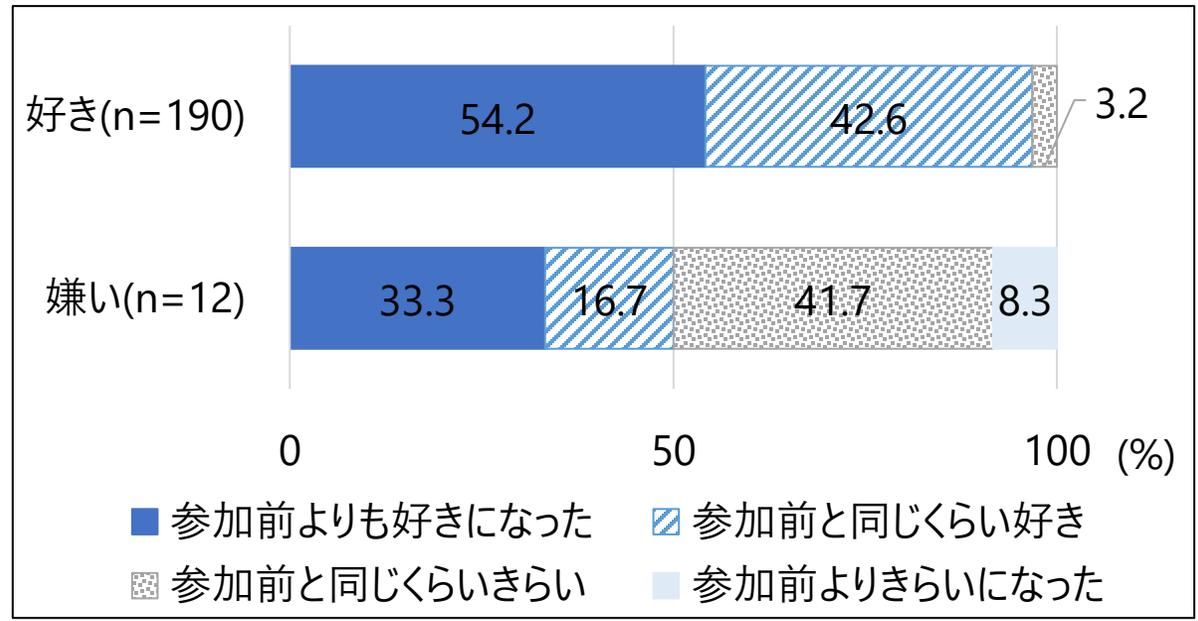
図表10 気持ちの変化と実施頻度



注) 高頻度: 1週間3回以上または1日1時間以上
 低頻度: 1週間に2回以下かつ1日1時間未満
 出前講座実施前の運動・スポーツ実施回数・時間を示す

「参加前よりも好きになった」「参加前と同じくらい好き」を合わせた割合は高頻度95.0%、低頻度97.7%と、実施頻度に関わらず、出前講座の実施は子どもたちの運動・スポーツに対する気持ちに好影響をもたらしている。

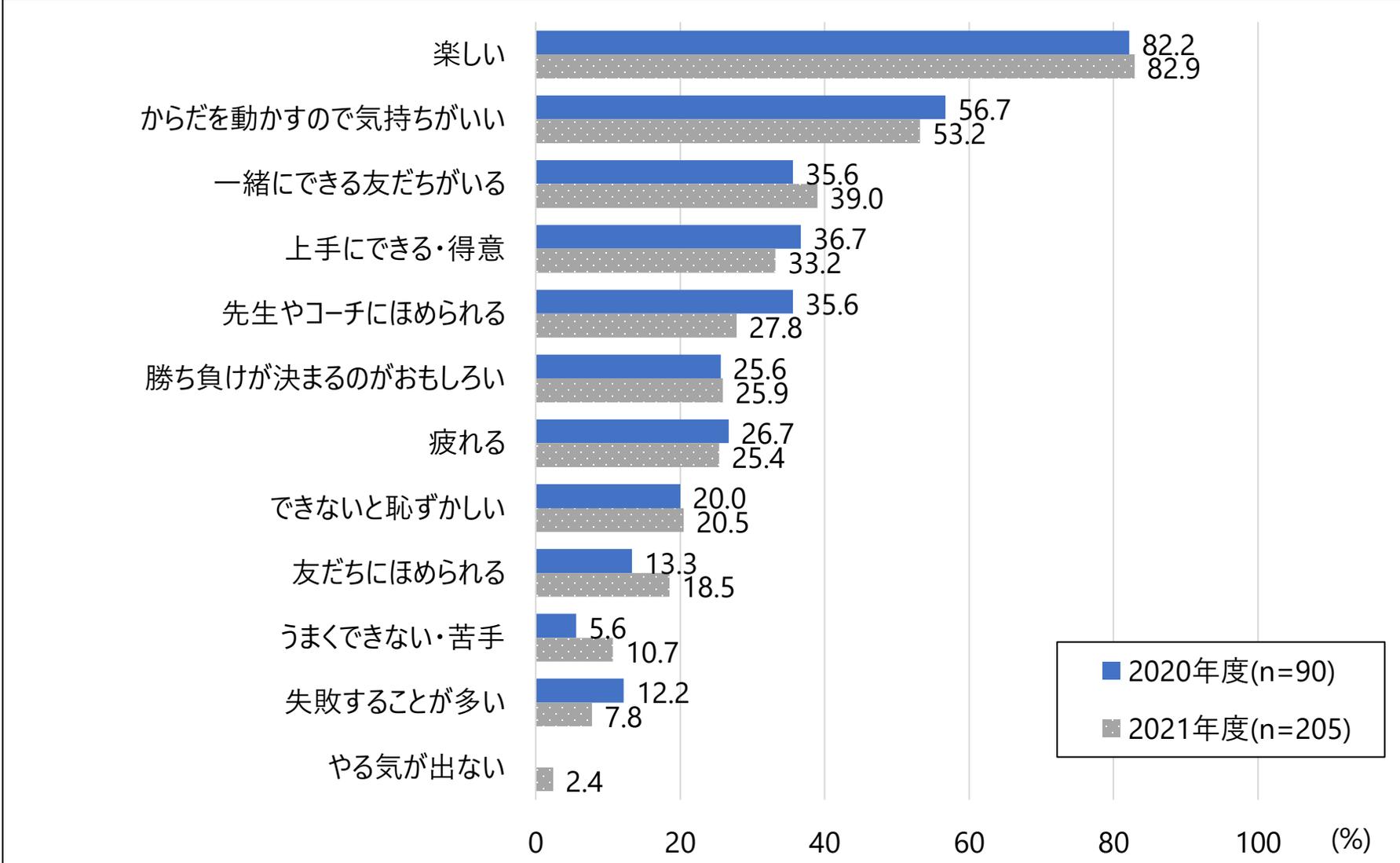
図表11 気持ちの変化と好き嫌い



運動・スポーツが「好き」と回答した子どもは「参加前よりも好きになった」「参加前と同じくらい好き」を合わせた割合が96.8%であった。一方「嫌い」と回答した子どもは「参加前よりも好きになった」「参加前と同じくらい好き」を合わせた割合が50%であり、出前講座の実施は運動・スポーツが嫌いな子どもの気持ちに対してもポジティブな影響を及ぼす可能性がある。

(4) 運動・スポーツについて感じていること

図表12 運動・スポーツについて感じていること



2020年度、2021年度ともに「楽しい」と感じる園児が80%を超え、「からだを動かすので気持ちがいい」が50%以上の割合を示した。

一方「うまくできない・苦手」と感じている園児は2020年度5.6%に対し2021年度は10.7%であった。

今年度調査のほうが苦手意識を持つ園児は多いものの、n数を考慮するとより実態に近い結果を得られたと考えられる。

■ 2020年度(n=90)
■ 2021年度(n=205)

(4) 運動・スポーツについて感じていること

図表13 ポジティブ、ネガティブな感情と実施頻度の関係

| | | 高頻度 (n=102) | 低頻度 (n=83) | ポイント差 (高頻度 -低頻度) |
|-------------------|-----------------|----------------|---------------|------------------------|
| ポジ テ イ ブ | 楽しい | 85.3 | 83.1 | 2.2 |
| | からだを動かすので気持ちがいい | 58.8 | 45.8 | 13.0 |
| | 一緒にできる友だちがいる | 43.1 | 37.3 | 5.8 |
| | 上手にできる・得意 | 38.2 | 26.5 | 11.7 |
| | 先生やコーチにほめられる | 31.4 | 26.5 | 4.9 |
| | 勝ち負けが決まるのがおもしろい | 24.5 | 26.5 | -2.0 |
| | 友だちにほめられる | 19.6 | 16.9 | 2.7 |
| ネガ テ イ ブ | できないと恥ずかしい | 25.5 | 16.9 | 8.6 |
| | 疲れる | 19.6 | 36.1 | -16.5 |
| | うまくできない・苦手 | 6.9 | 15.7 | -8.8 |
| | 失敗することが多い | 6.9 | 10.8 | -3.9 |
| | やる気が出ない | 2.0 | 2.4 | -0.4 |

運動・スポーツについて感じていることをポジティブ、ネガティブ項目に分類し高頻度、低頻度グループで比較した。

頻度別の差を見ると「からだを動かすので気持ちがいい」は13.0ポイント、「上手にできる・得意」は11.7ポイントとポジティブ項目の中でも差が大きい。

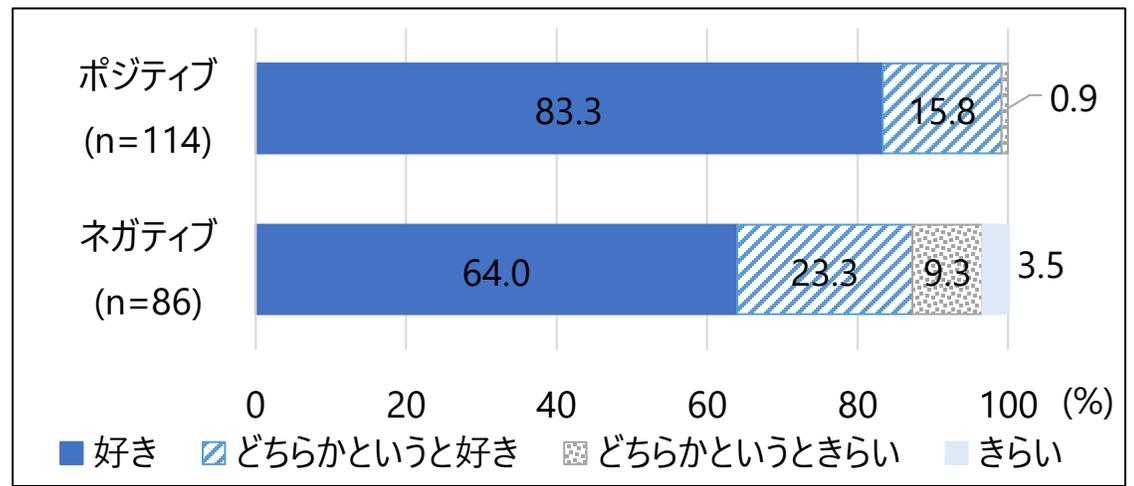
ネガティブ項目では「疲れる」が-16.5ポイント、「うまくできない・苦手」-8.8ポイント、「できないと恥ずかしい」8.6ポイントであった。

実施頻度が少ない子どものほうがポジティブ項目の割合が低く、疲れる、苦手といったネガティブ項目の割合が高い傾向が確認された。

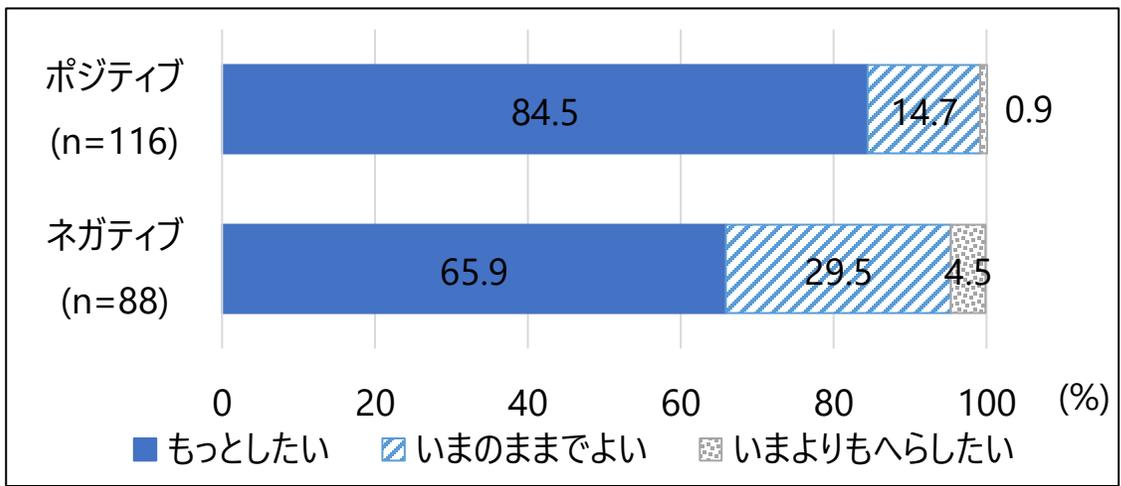
注) 高頻度: 1週間3回以上または1日1時間以上
 低頻度: 1週間に2回以下かつ1日1時間未満
 出前講座実施前の運動・スポーツ実施回数・時間を示す

(4) 運動・スポーツについて感じていること

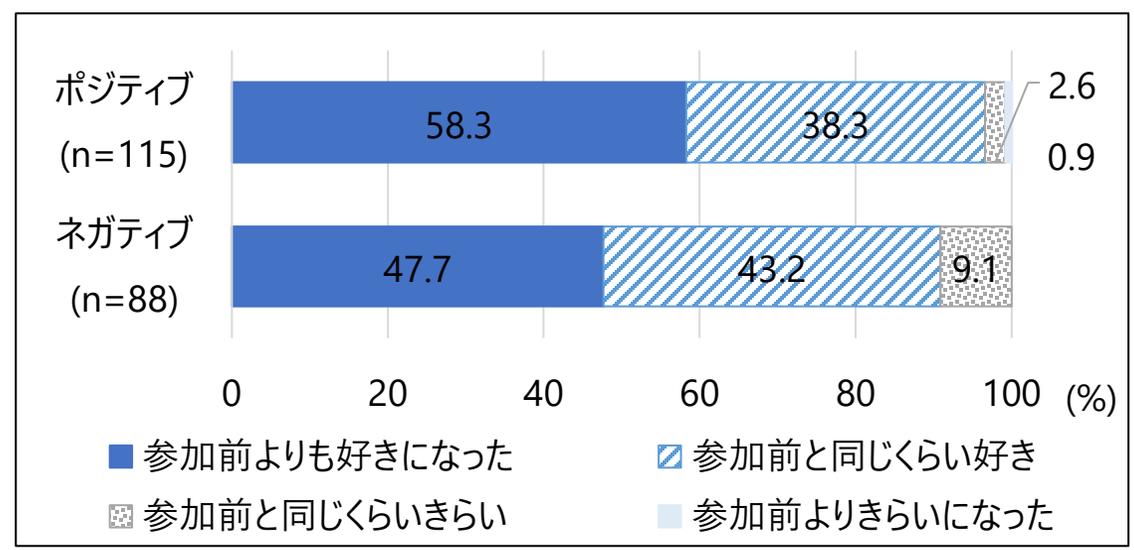
図表14 ポジティブ、ネガティブな感情と運動・スポーツの好き嫌い



図表16 ポジティブ、ネガティブな感情と実施意欲



図表15 ポジティブ、ネガティブな感情と講座参加後の気持ち



注)「ポジティブ」: 図表13のポジティブ項目のみを選択した園児
 「ネガティブ」: 図表13のネガティブ項目を1つ以上選択した園児

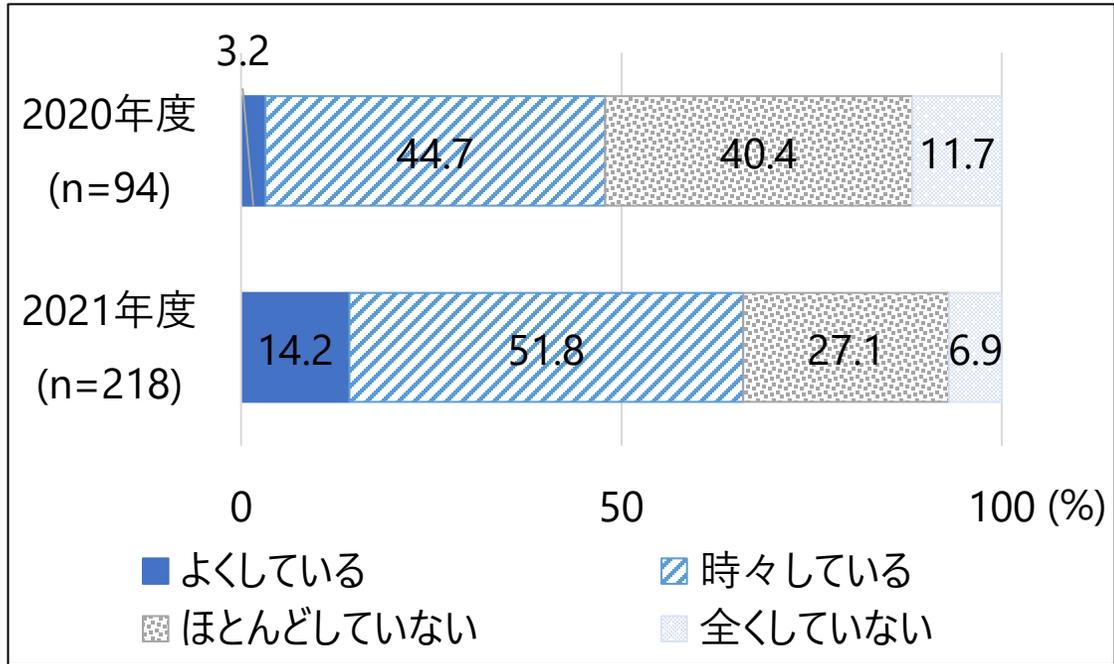
運動・スポーツについてポジティブな感情のみを持つ子どもと、ネガティブな感情を1つ以上もつ子どもを比較した。

運動・スポーツが「好き」と回答した子どもは「ポジティブ」83.3%、「ネガティブ」64.0%であった。講座参加後の気持ちが「参加前よりも好きになった」は「ポジティブ」58.3%、「ネガティブ」47.7%、実施意欲の「もっとしたい」は「ポジティブ」84.5%、「ネガティブ」65.9%であった。

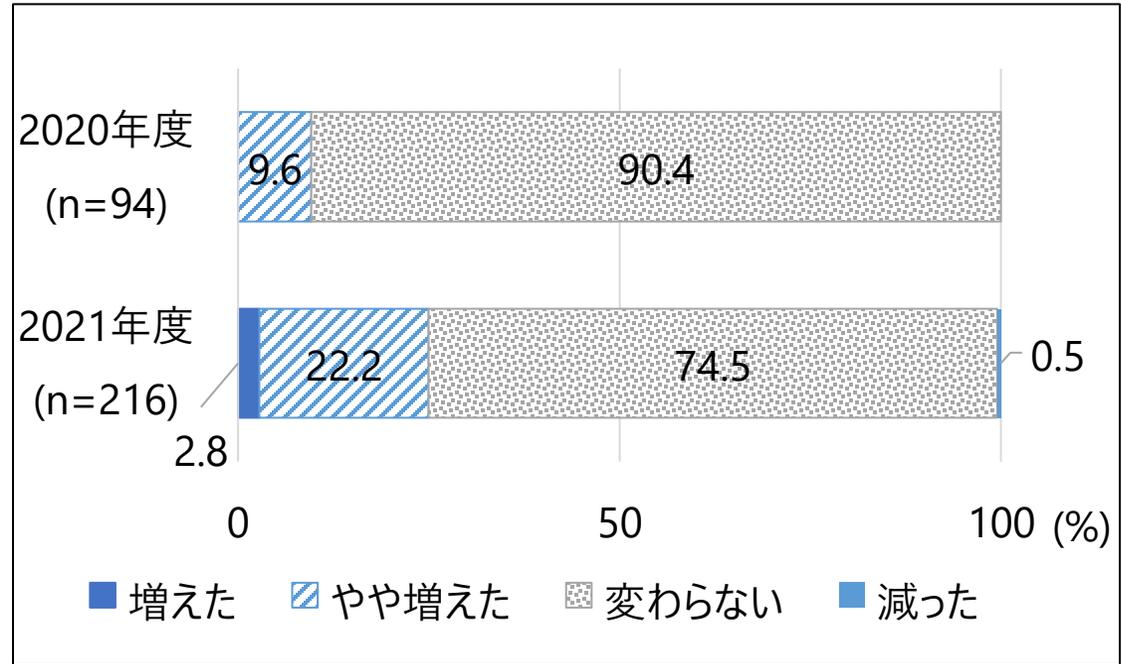
いずれの項目も「ポジティブ」の割合が「ネガティブ」を上回る結果となった。

(5) 家族との運動・スポーツ(保護者回答)

図表17 家族との運動・スポーツ実施状況



図表18 講座参加後の家族との実施状況の変化

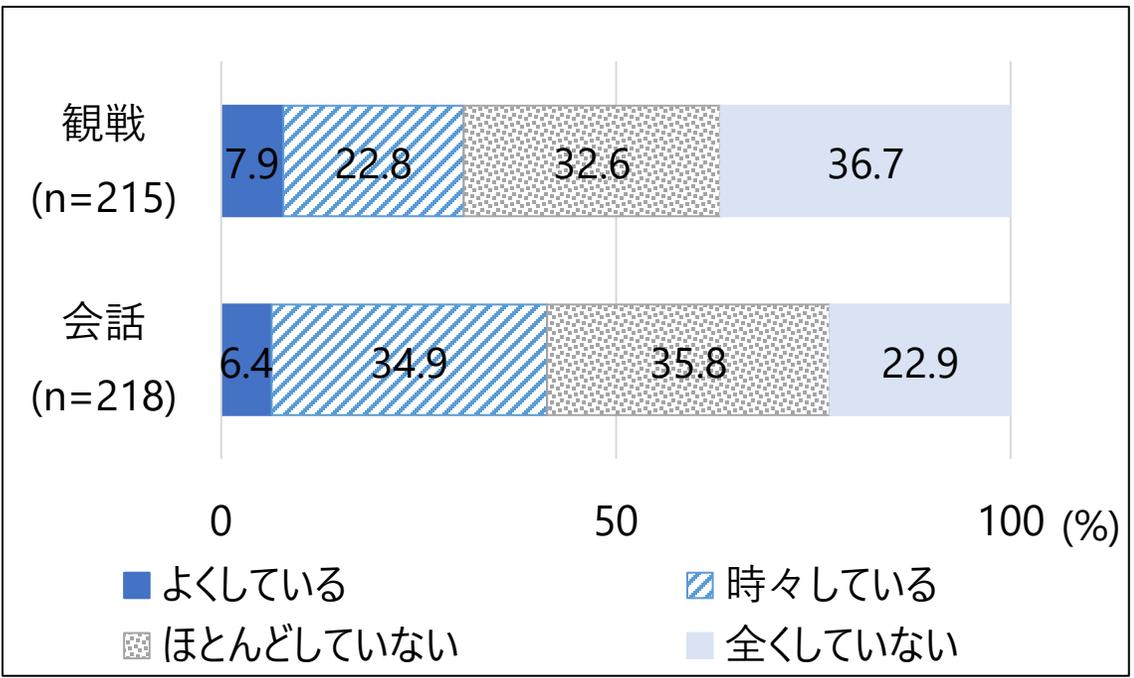


2021年度の家族との運動・スポーツ実施状況は「よくしている」14.2%、「時々している」51.8%。「ほとんどしていない」27.1%、「全くしていない」6.9%であった。「よくしている」「時々している」を合わせると2020年度47.9%、2021年度は66.0%と昨年度より高い割合を示した。

講座参加後の家族との運動機会は2020年度の「やや増えた」9.6%に対し、2021年度は「増えた」2.8%、「やや増えた」22.2%と昨年度よりも講座の実施が家族との運動・スポーツ実施に繋がったと考えられる。

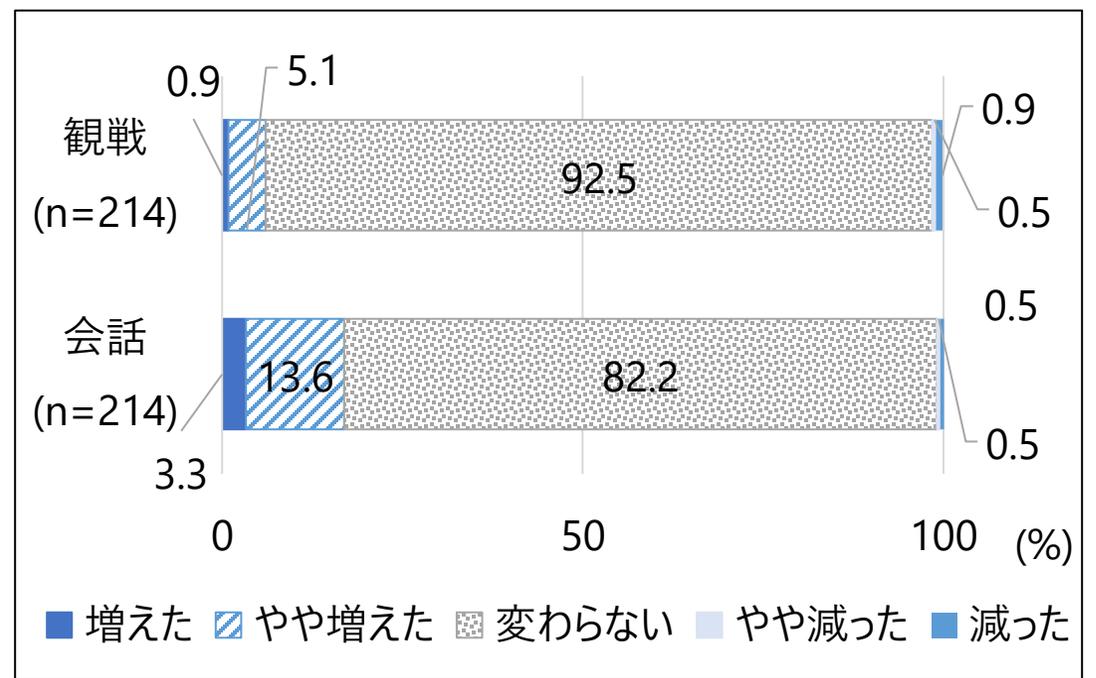
(5) 家族との運動・スポーツ(保護者回答)

図表19 家族との観戦・会話の実施状況



家族との観戦は「よくしている」7.9%、「時々している」22.8%、「ほとんどしていない」32.6%、「全くしていない」36.7%であった。
 家族との会話は「よくしている」6.4%、「時々している」34.9%、「ほとんどしていない」35.8%、「全くしていない」22.9%であった。

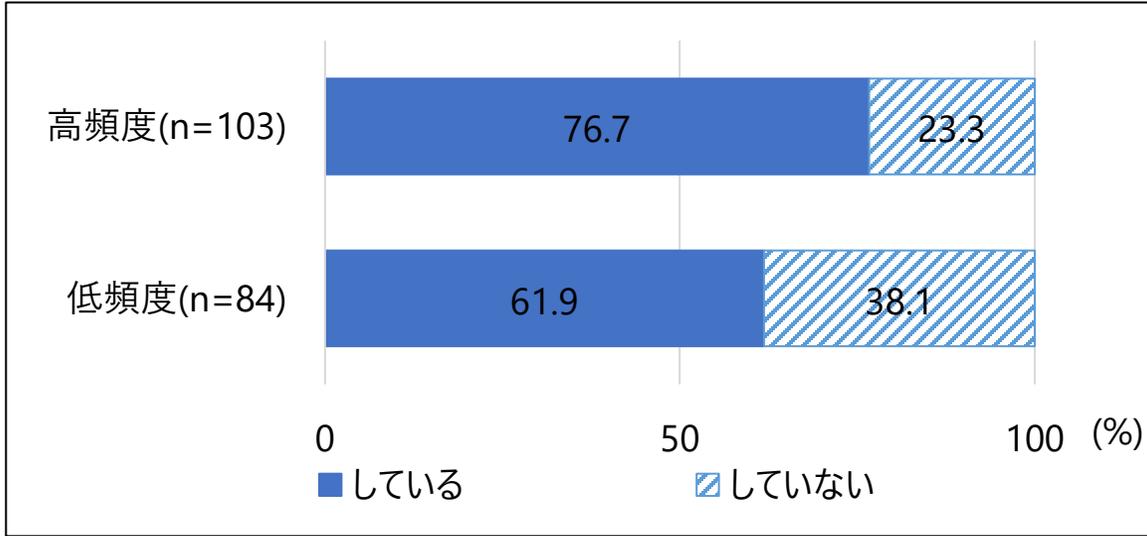
図表20 講座参加後の家族との観戦・会話状況の変化



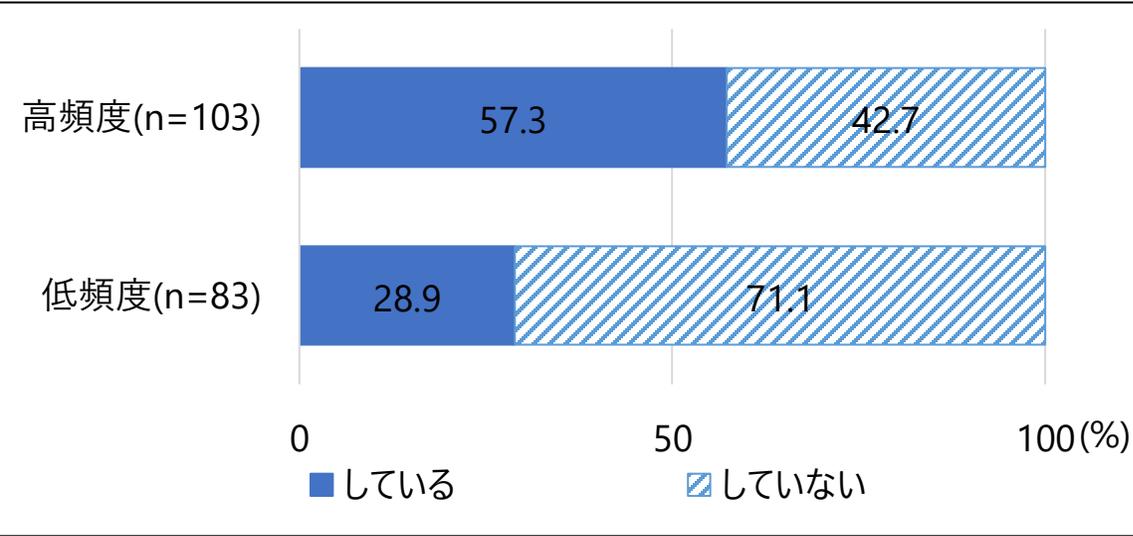
家族との観戦・会話状況の変化をみると、「増えた」「やや増えた」を足した割合は観戦が6.0%、会話が16.9%であった。講座の実施により家庭での観戦、会話の頻度が若干増加した様子が確認できる。

(5) 家族との運動・スポーツ(保護者回答)

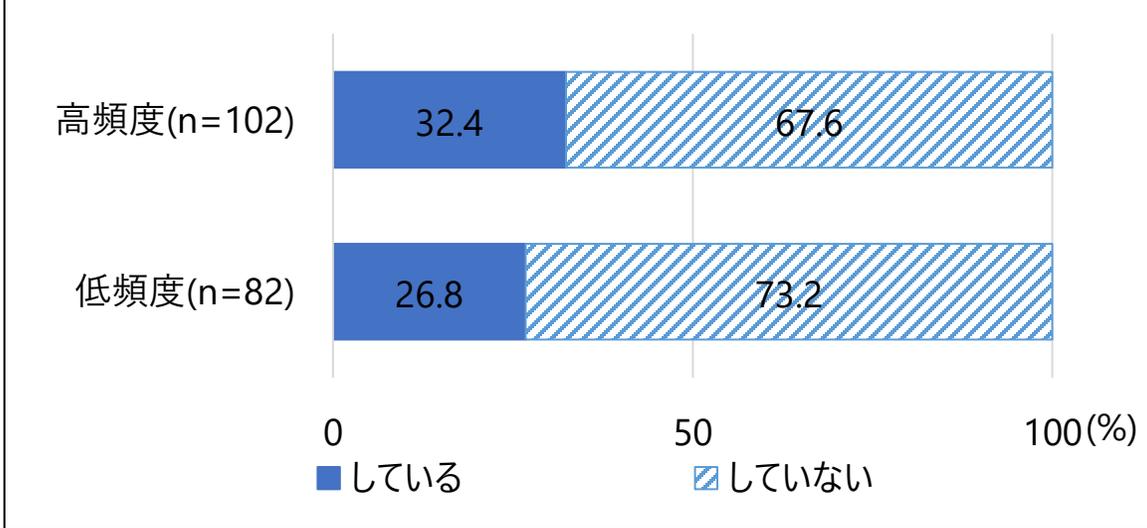
図表21 実施頻度と家族との実施



図表23 実施頻度と家族との会話



図表22 実施頻度と家族との観戦

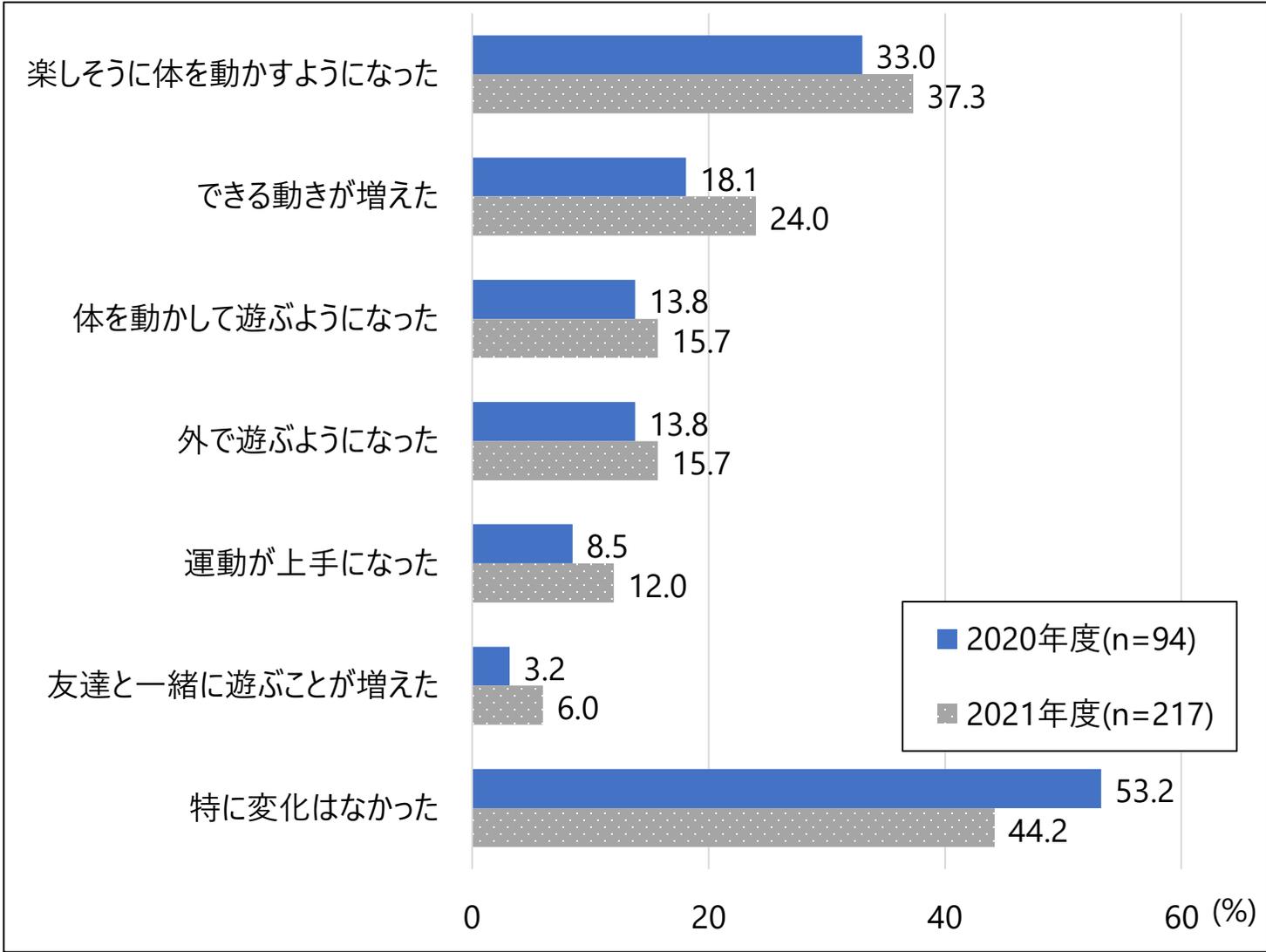


注1) している: 「よくしている」「時々している」の合計
 していない: 「ほとんどしていない」「全くしていない」の合計
 注2) 高頻度: 1週間3回以上または1日1時間以上
 低頻度: 1週間に2回以下かつ1日1時間未満
 出前講座実施前の運動・スポーツ実施回数・時間を示す

子どもの運動・スポーツ実施頻度と家族との運動・スポーツの関係を示した。家族と実施「している」の割合は「高頻度」76.7%、「低頻度」61.9%で、観戦は「高頻度」32.4%、「低頻度」26.8%、会話は「高頻度」57.3%、「低頻度」28.9%であった。家族との運動・スポーツ「実施」「会話」は「高頻度」のほうが「低頻度」より「している」の割合が高い結果を示し、特に「会話」でその差が大きい。

(6) 運動あそび出前講座参加後の家庭での子どもの変化(保護者回答)

図表24 講座参加後の子どもの変化



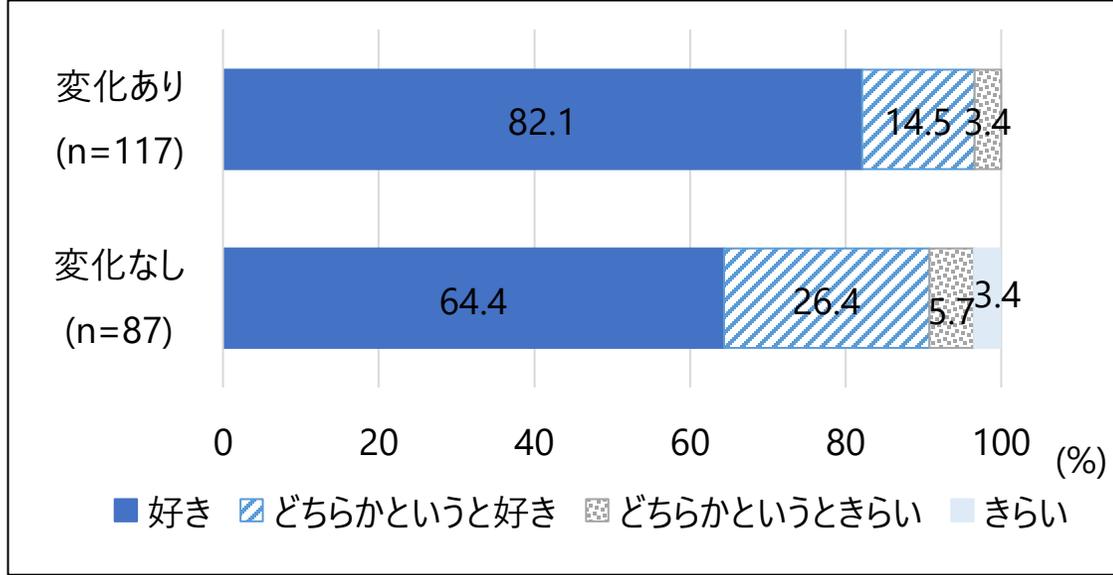
講座参加後の家庭での子どもの様子の変化をみると、「楽しそうに体を動かすようになった」が2020年度33.0%、2021年度37.3%と最も高い。

2020年度と2021年度を比較すると、「特に変化はなかった」を除くすべての項目で2021年度の割合が高く、講座実施による家庭での変化は大きくなっている。

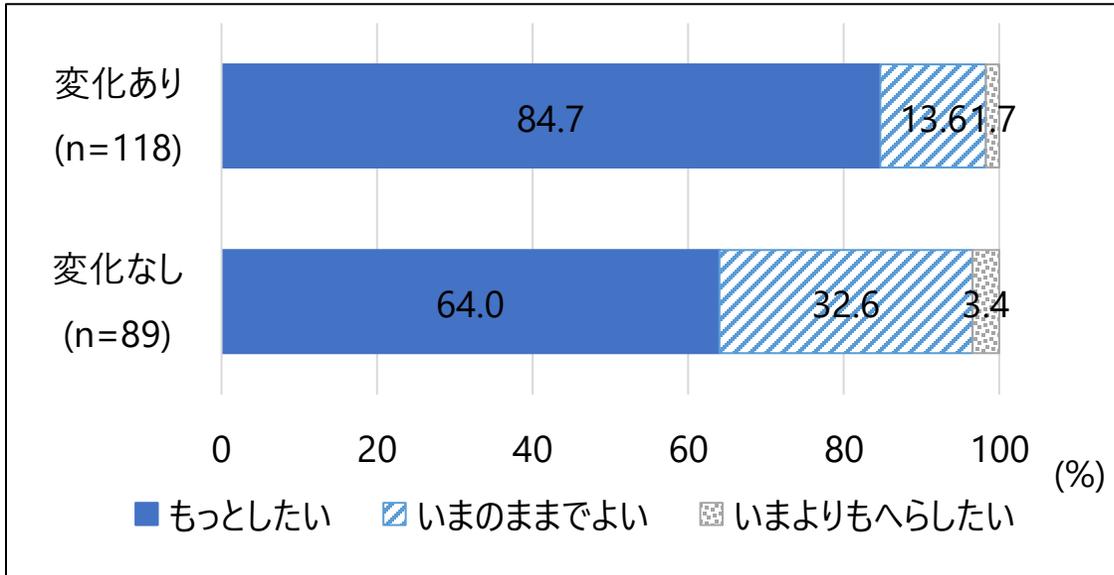
2021年度の「特に変化はなかった」は44.2%であり全体の半数以上に何らかの変化がみられた

(6) 運動あそび出前講座参加後の家庭での子どもの変化(保護者回答)

図表25 変化の有無と子どもの運動・スポーツ好き嫌い



図表26 変化の有無と講座参加後の子どもの実施意向

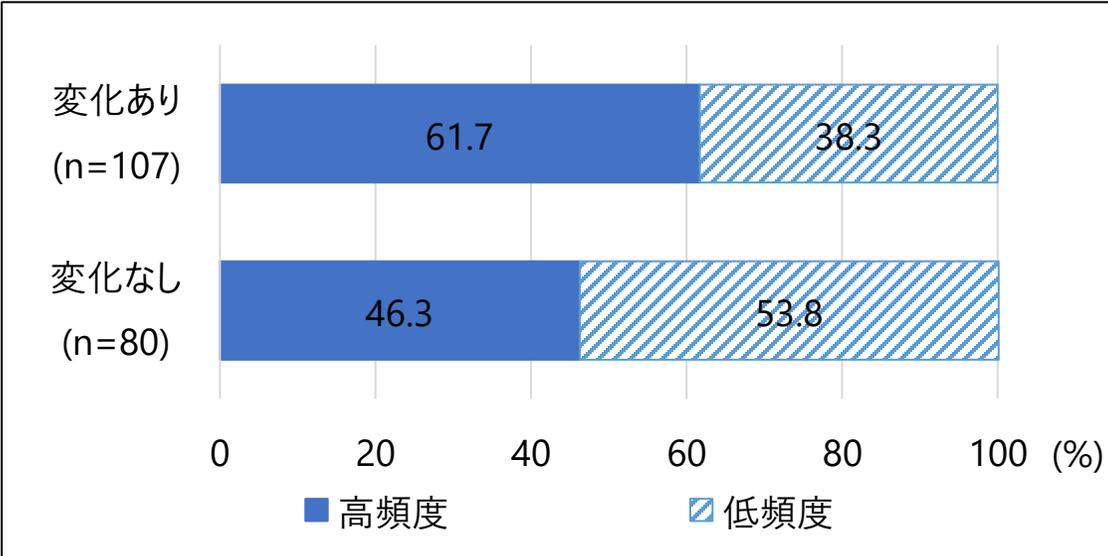


注) 変化あり: 図表24で「特に変化はなかった」以外を回答した者
 変化なし: 図表24で「特に変化はなかった」と回答した者

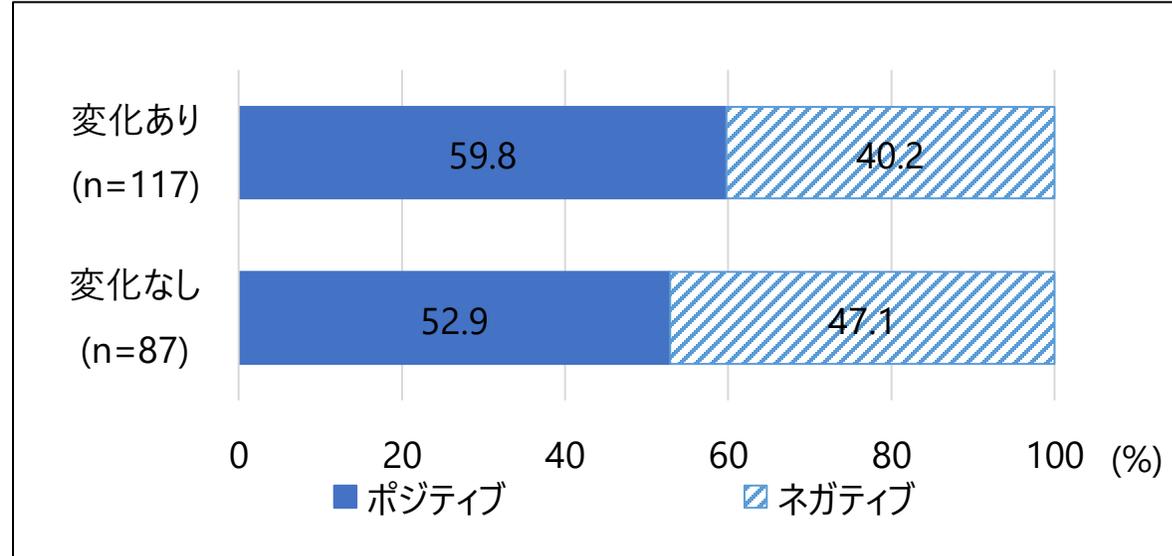
家庭での子どもの様子の変化と運動・スポーツ好き嫌いとの関係を見ると、「好き」と回答した子どもは「変化あり」82.1%、「変化なし」64.4%と変化があった子どものほうが高い割合を示した。実施意向で「もっとしたい」と回答した子どもは「変化あり」84.7%、「変化なし」64.0%であった。出前講座参加後の子どもの様子の変化と子どもの運動・スポーツに対する気持ちに関連がみられた。

(6) 運動あそび出前講座参加後の家庭での子どもの変化(保護者回答)

図表27 変化の有無と子どもの運動・スポーツ実施頻度



図表28 変化の有無と子どもの運動・スポーツに対する気持ち



注1) 変化あり: 図表24で「特に変化はなかった」以外を回答した者
 変化なし: 図表24で「特に変化はなかった」と回答した者

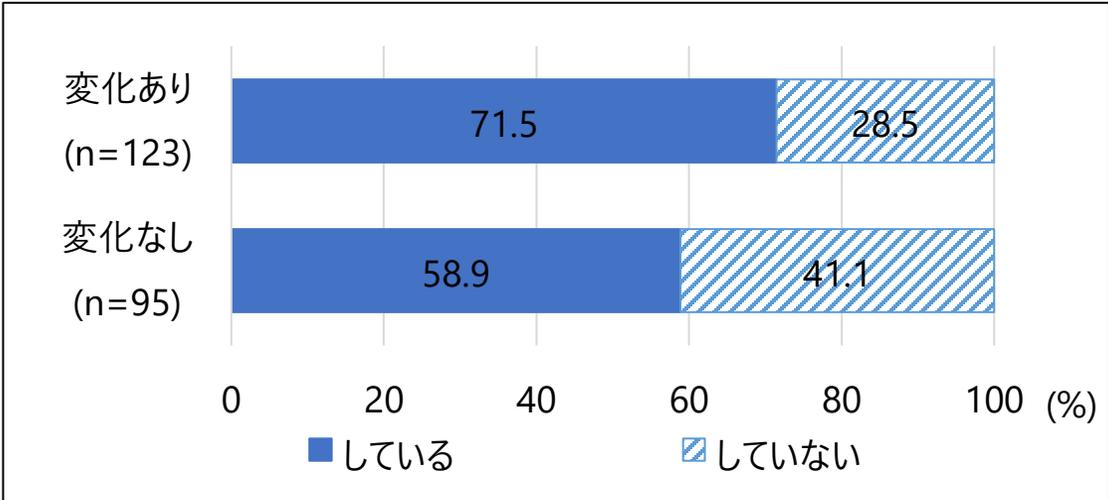
注2) 高頻度: 1週間3回以上または1日1時間以上
 低頻度: 1週間に2回以下かつ1日1時間未満
 出前講座実施前の運動・スポーツ実施回数・時間を示す

注3) 「ポジティブ」: 図表13のポジティブ項目のみを選択した園児
 「ネガティブ」: 図表13のネガティブ項目を1つ以上選択した園児

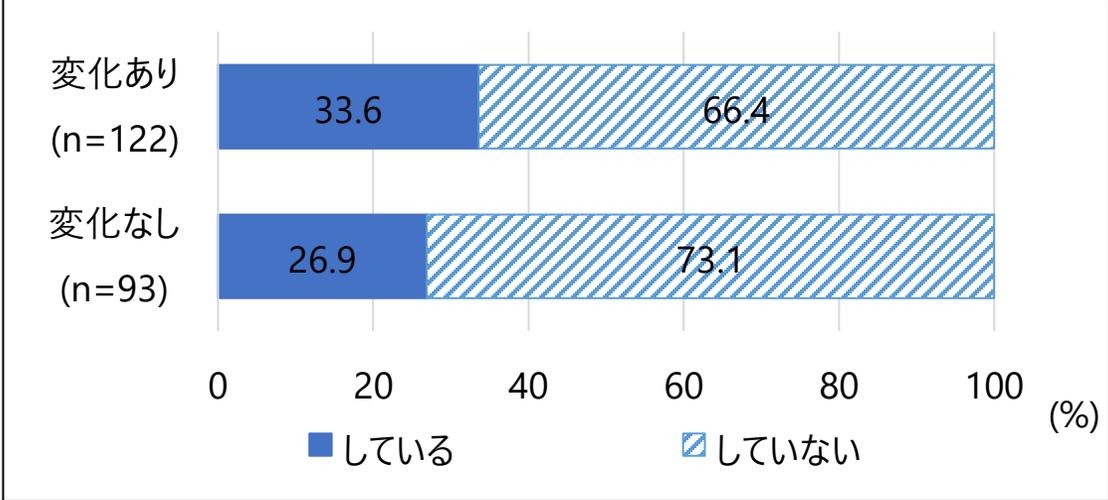
家庭での子どもの様子の変化と運動・スポーツ実施頻度の関係を見ると、高頻度の割合が「変化あり」61.7%、「変化なし」46.3%であり、変化があった子どものほうが日ごろから高頻度で運動・スポーツを実施している。運動・スポーツに対する気持ちが「ポジティブ」の割合は「変化あり」59.8%、「変化なし」52.9%であり、図表27の実施頻度ほどの差はみられないものの「変化あり」のほうが高い値を示した。

(6) 運動あそび出前講座参加後の家庭での子どもの変化(保護者回答)

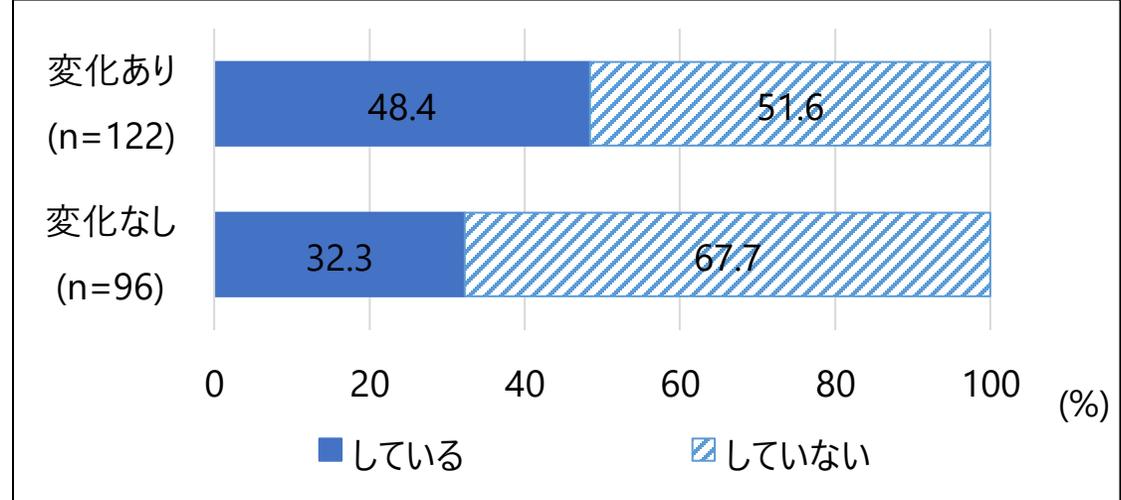
図表29 変化の有無と家族との実施状況



図表30 変化の有無と家族との観戦状況



図表31 変化の有無と家族との会話状況

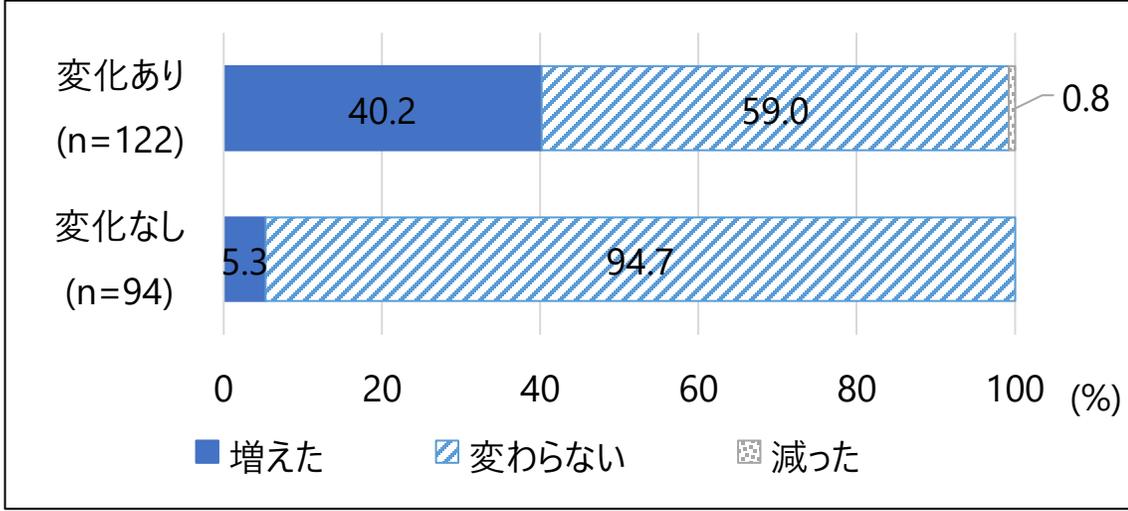


注1) 変化あり: 図表24で「特に変化はなかった」以外を回答した者
 変化なし: 図表24で「特に変化はなかった」と回答した者
 注2) している: 「よくしている」「時々している」の合計
 していない: 「ほとんどしていない」「全くしていない」の合計

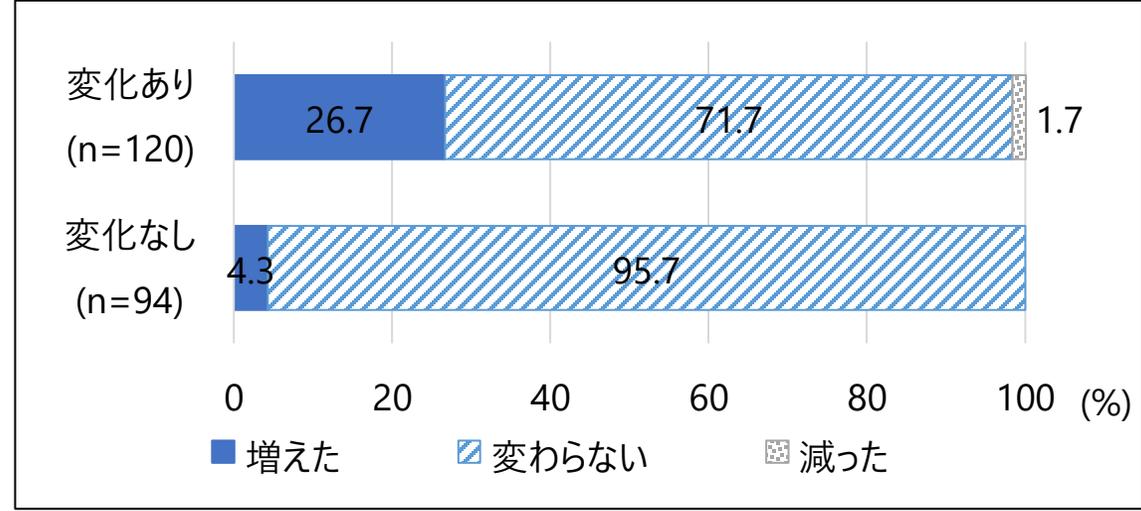
家庭での子どもの様子の変化と家族との運動・スポーツ実施・観戦・会話の状況を見ると、実施を「している」の割合は「変化あり」71.5%、「変化なし」58.9%、観戦は「変化あり」33.6%、「変化なし」26.9%、会話は「変化あり」48.4%、「変化なし」32.3%であり、いずれも「変化あり」の割合が高い結果となった。

(6) 運動あそび出前講座参加後の家庭での子どもの変化(保護者回答)

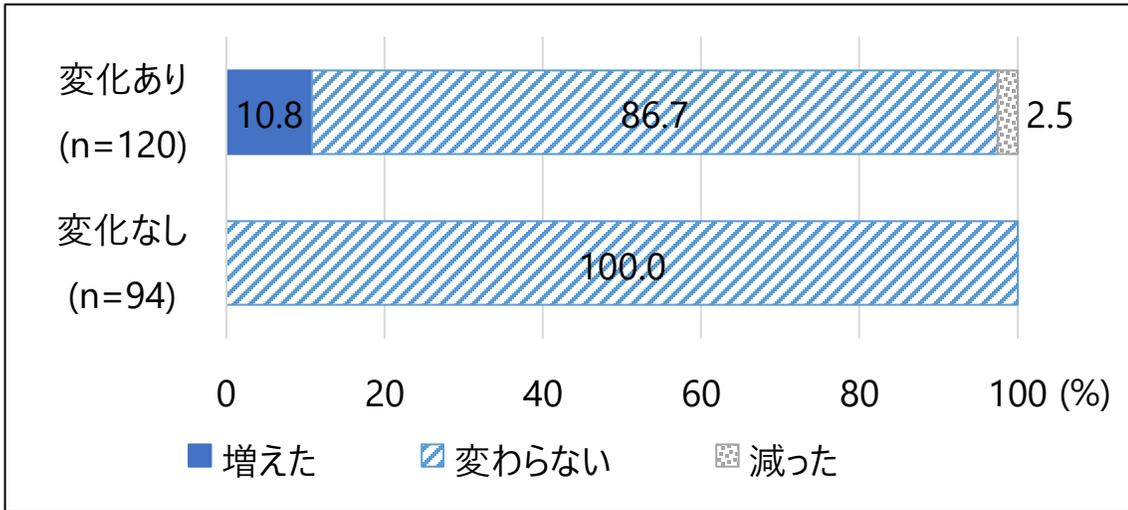
図表32 変化の有無と家族との実施の増減



図表34 変化の有無と家族との会話の増減



図表33 変化の有無と家族との観戦の増減

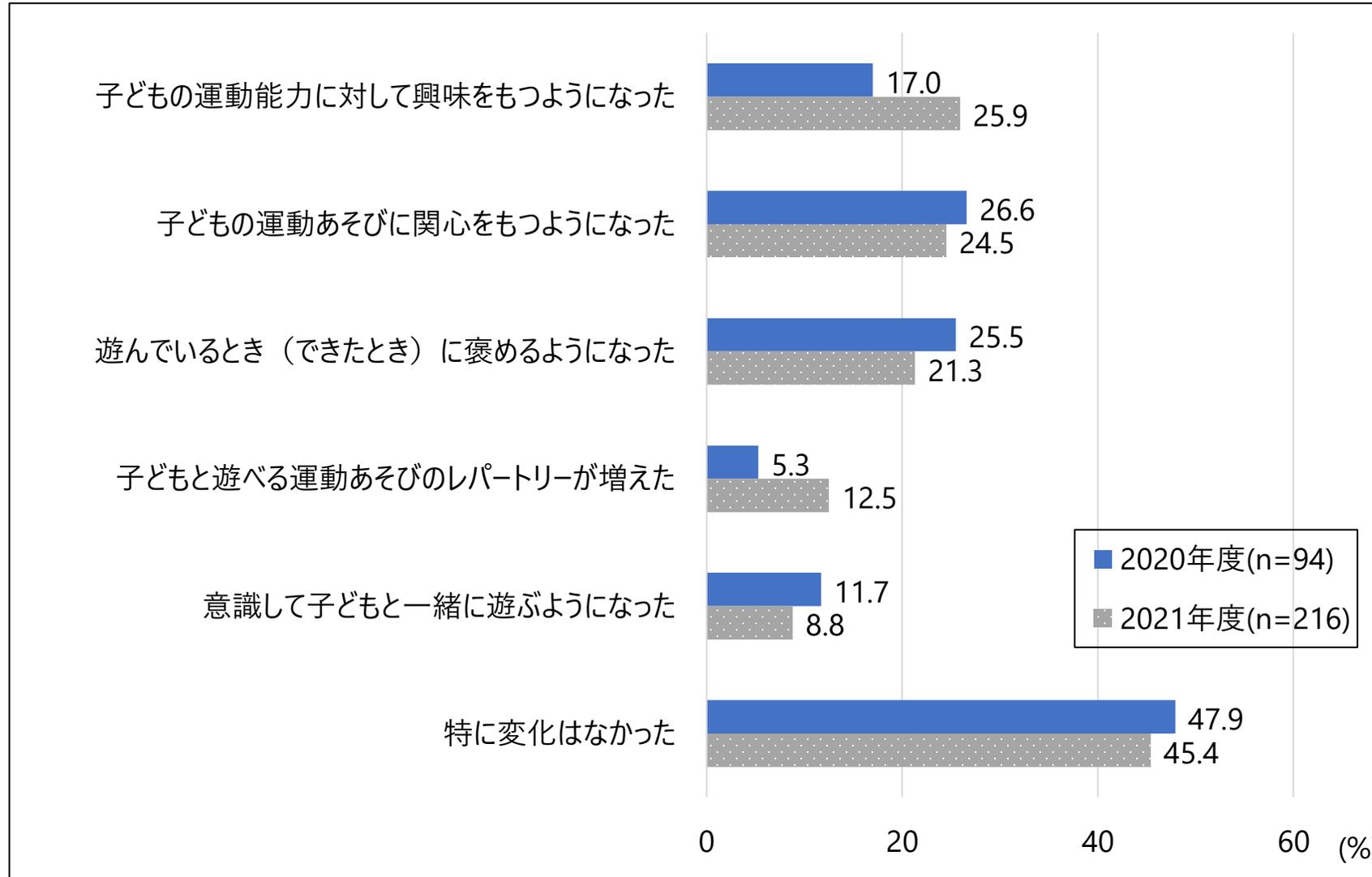


注) 変化あり: 図表24で「特に変化はなかった」以外を回答した者
 変化なし: 図表24で「特に変化はなかった」と回答した者

家庭での子どもの様子の変化と家族との運動・スポーツ実施・観戦・会話の増減について示した。家族との実施が「増えた」と回答した割合は、「変化あり」40.2%、「変化なし」5.3%、観戦は「変化あり」10.8%、会話は「変化あり」26.7%、「変化なし」4.3%であった。家族との実施と会話の増減は変化の有無による差が特に大きかった。

(7)運動あそび出前講座参加後の子どもと一緒に遊ぶ際の保護者の気持ちや内容の変化(保護者回答)

図表35 保護者の気持ちやあそびの内容の変化

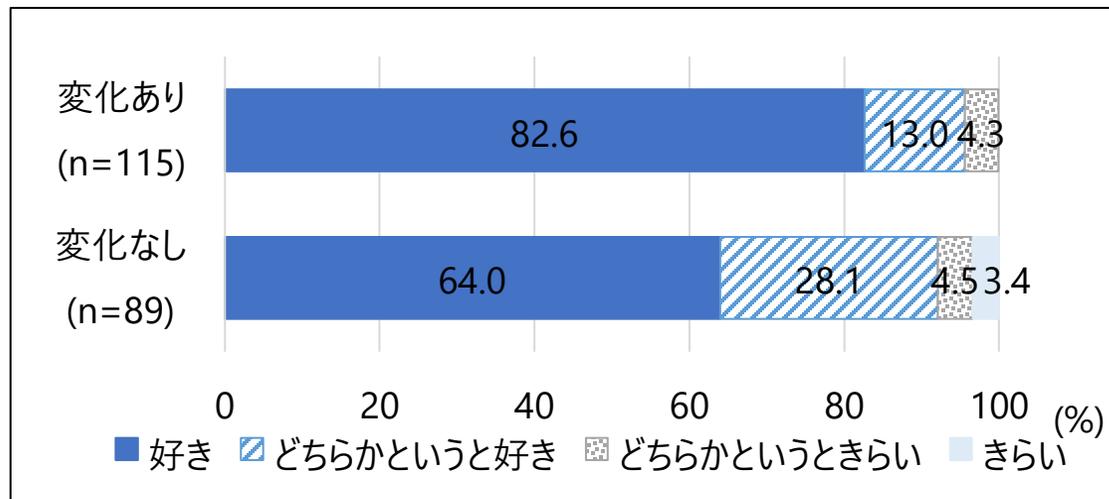


2021年度の調査では「子どもの運動能力に対して興味をもつようになった」が25.9%と最も高く、「子どもの運動あそびに関心をもつようになった」24.5%が続いた。

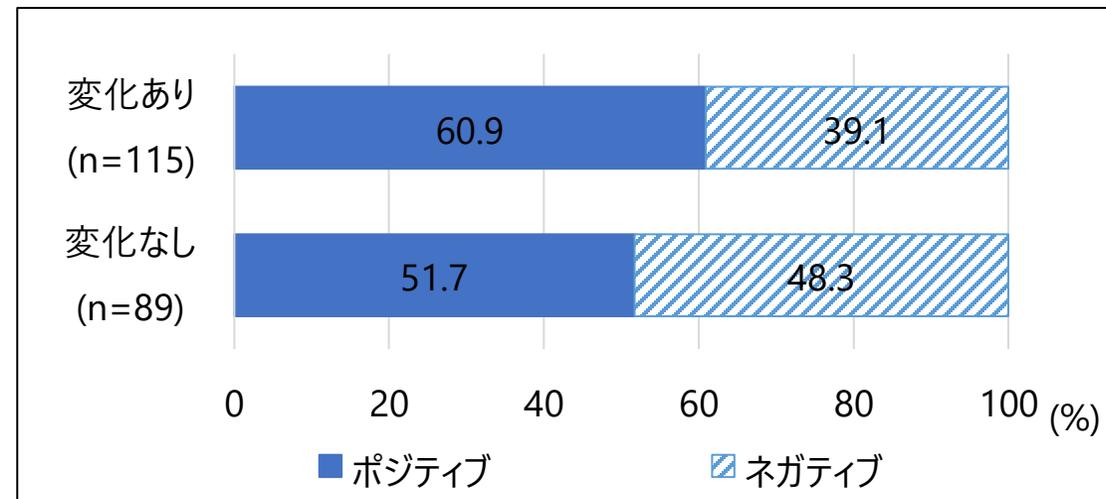
2020年度と比べ、「子どもの運動能力に興味をもつようになった」が8.9ポイント(17.0%→25.9%)、「子どもと遊べる運動あそびのレパートリーが増えた」が7.2ポイント(5.3%→12.5%)増えた。

(7)運動あそび出前講座参加後の子どもと一緒に遊ぶ際の保護者の気持ちや内容の変化(保護者回答)

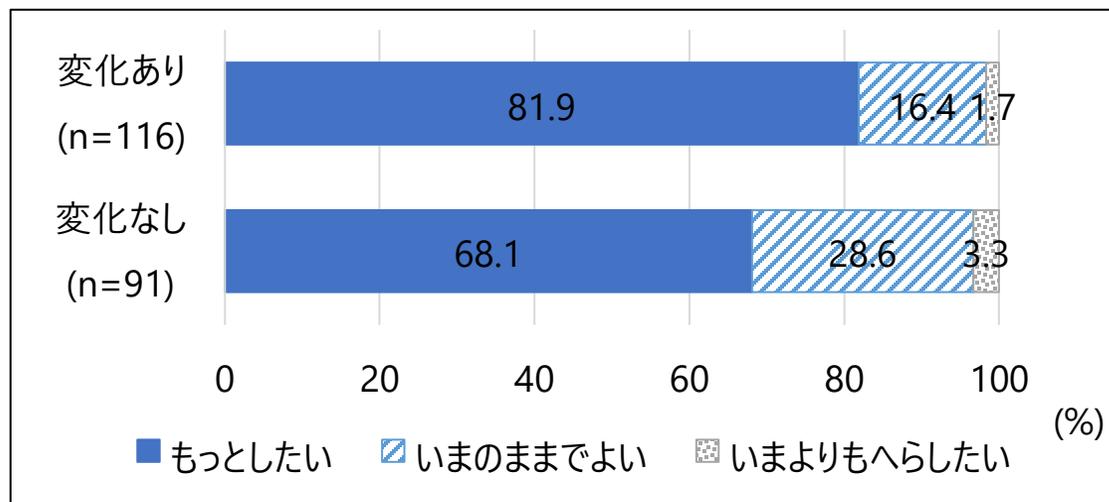
図表36 変化の有無と子どもの好き嫌い



図表38 変化の有無と子どもの運動・スポーツに対する気持ち



図表37 変化の有無と講座参加後の意欲



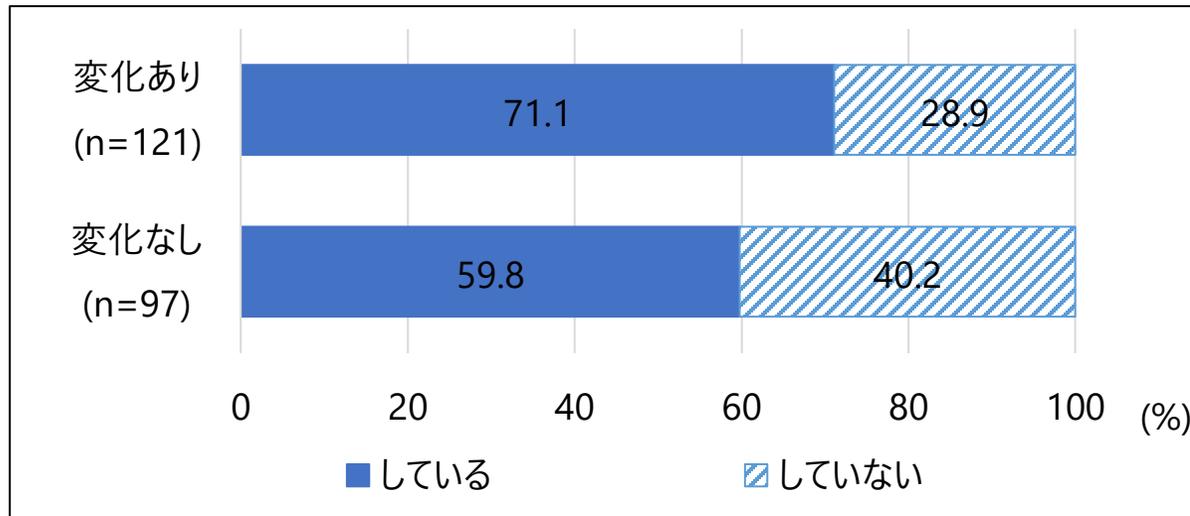
注1) 変化あり: 図表35で「特に変化はなかった」以外を回答した者
 変化なし: 図表35で「特に変化はなかった」と回答した者

注2) 「ポジティブ」: 図表13のポジティブ項目のみを選択した園児
 「ネガティブ」: 図表13のネガティブ項目を1つ以上選択した園児

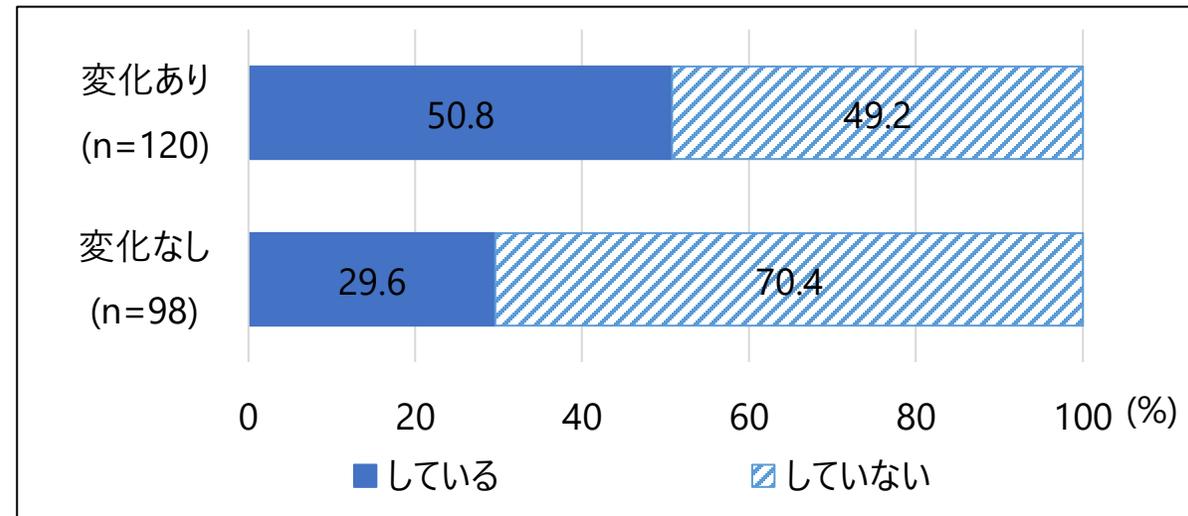
講座参加後の子どもと一緒に遊ぶ際の保護者の気持ちや内容の変化があった者となかった者を比較すると、子どもの運動・スポーツ好き嫌いでは「好き」の割合が「変化あり」82.6%、「変化なし」64.0%であった。講座参加後の意欲では「もっとしたい」の割合が「変化あり」81.9%、「変化なし」68.1%、子どもの運動・スポーツに対する気持ちの「ポジティブ」の割合が「変化あり」60.9%、「変化なし」51.7%であった。いずれも「変化あり」が高い結果であった。

(7)運動あそび出前講座参加後の子どもと一緒に遊ぶ際の保護者の気持ちや内容の変化(保護者回答)

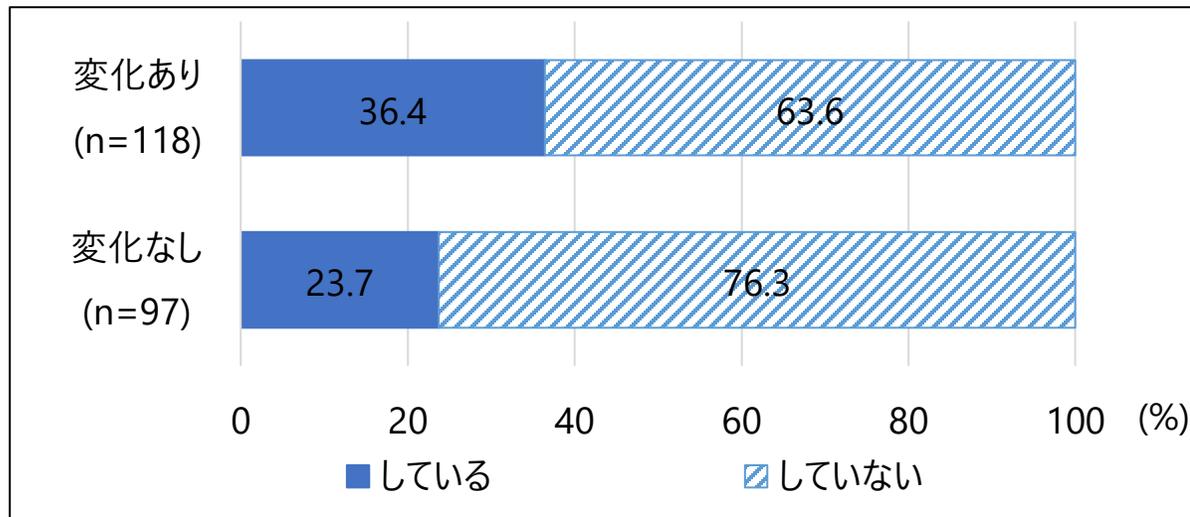
図表39 変化の有無と家庭での実施



図表41 変化の有無と家庭での会話



図表40 変化の有無と家庭での観戦



注1) 変化あり: 図表35で「特に変化はなかった」以外を回答した者

変化なし: 図表35で「特に変化はなかった」と回答した者

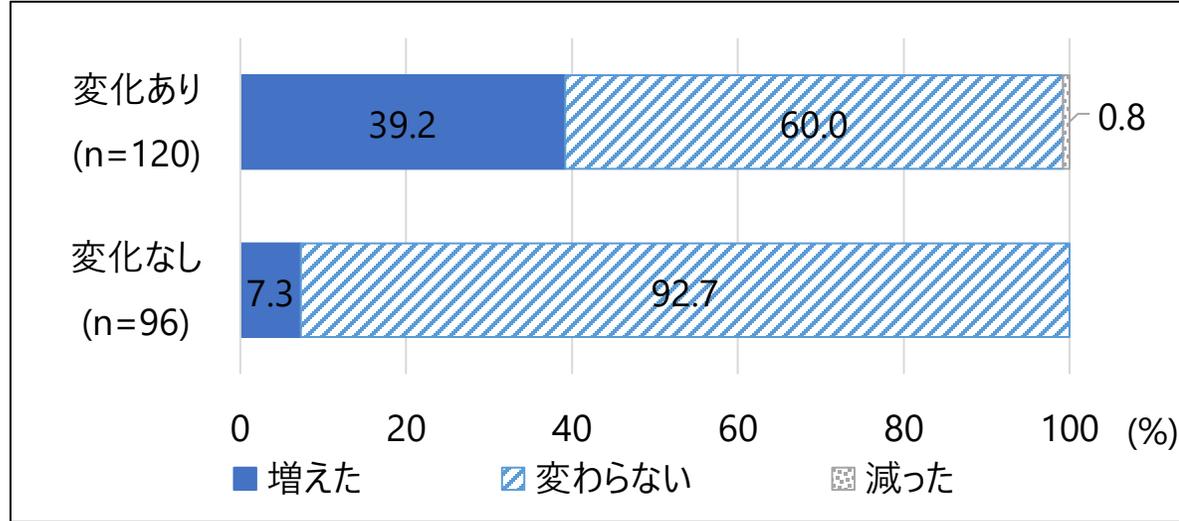
注2) している: 「よくしている」「時々している」の合計

していない: 「ほとんどしていない」「全くしていない」の合計

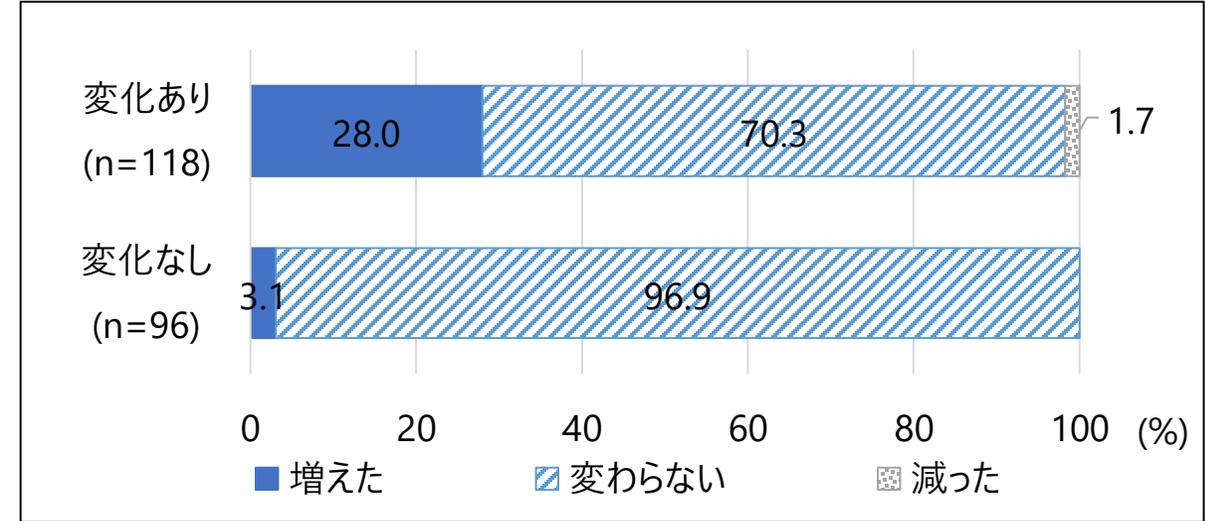
講座参加後の子どもと一緒に遊ぶ際の保護者の気持ちや内容の変化と家庭での運動・スポーツ実施、観戦、会話の状況を示した。実施を「している」の割合は「変化あり」71.1%、「変化なし」59.8%、観戦は「変化あり」36.4%、「変化なし」23.7%、会話は「変化あり」50.8%、「変化なし」29.6%であり、いずれも「変化あり」の割合が高い結果となった。

(7) 運動あそび出前講座参加後の子どもと一緒に遊ぶ際の保護者の気持ちや内容の変化(保護者回答)

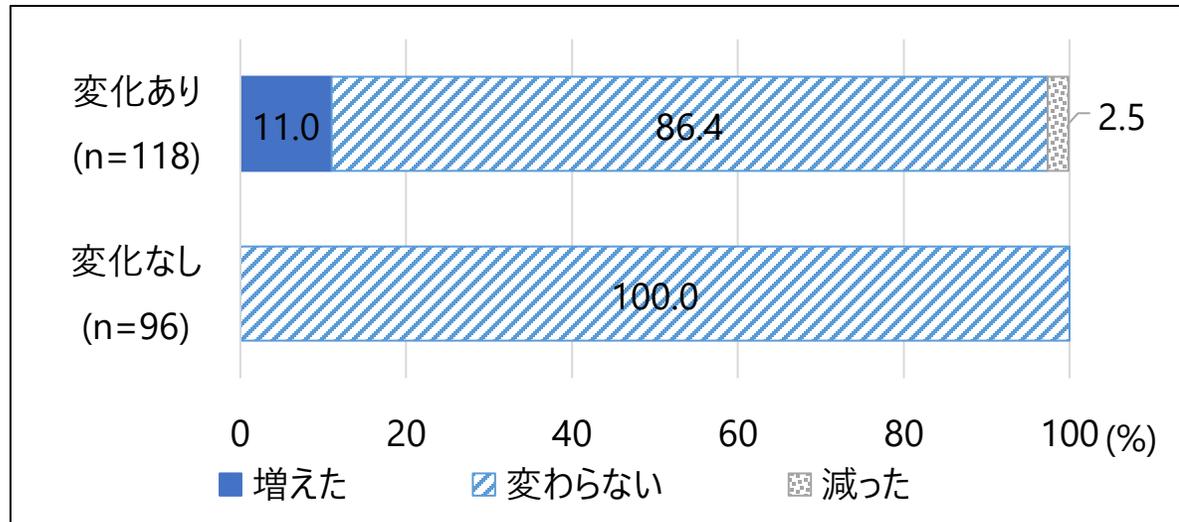
図表42 変化の有無と家庭での実施の増減



図表44 変化の有無と家庭での会話の増減



図表43 変化の有無と家庭での観戦の増減



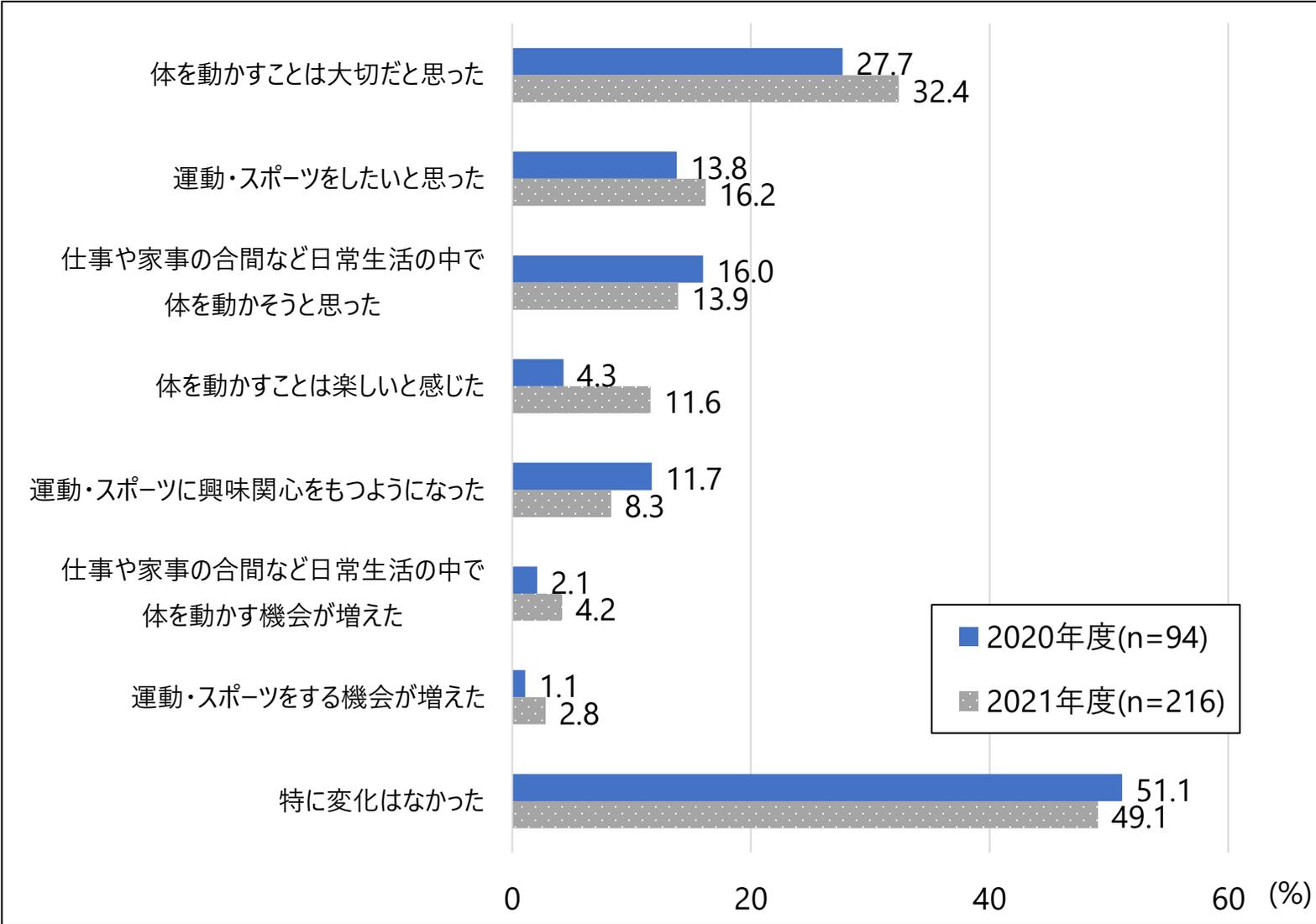
注) 変化あり: 図表34で「特に変化はなかった」以外を回答した者
 変化なし: 図表34で「特に変化はなかった」と回答した者

講座参加後の子どもと一緒に遊ぶ際の保護者の気持ちや内容の変化と家族との運動・スポーツ実施・観戦・会話の増減について示した。家族との実施が「増えた」と回答した割合は、「変化あり」39.2%、「変化なし」7.3%、観戦は「変化あり」11.8%、会話は「変化あり」28.0%、「変化なし」3.1%であった。

家族との実施と会話の増減は変化の有無による差が特に大きかった。

(8) 講座参加後の保護者自身の運動に対する行動や意識の変化(保護者回答)

図表45 保護者自身の運動に対する行動や意識の変化

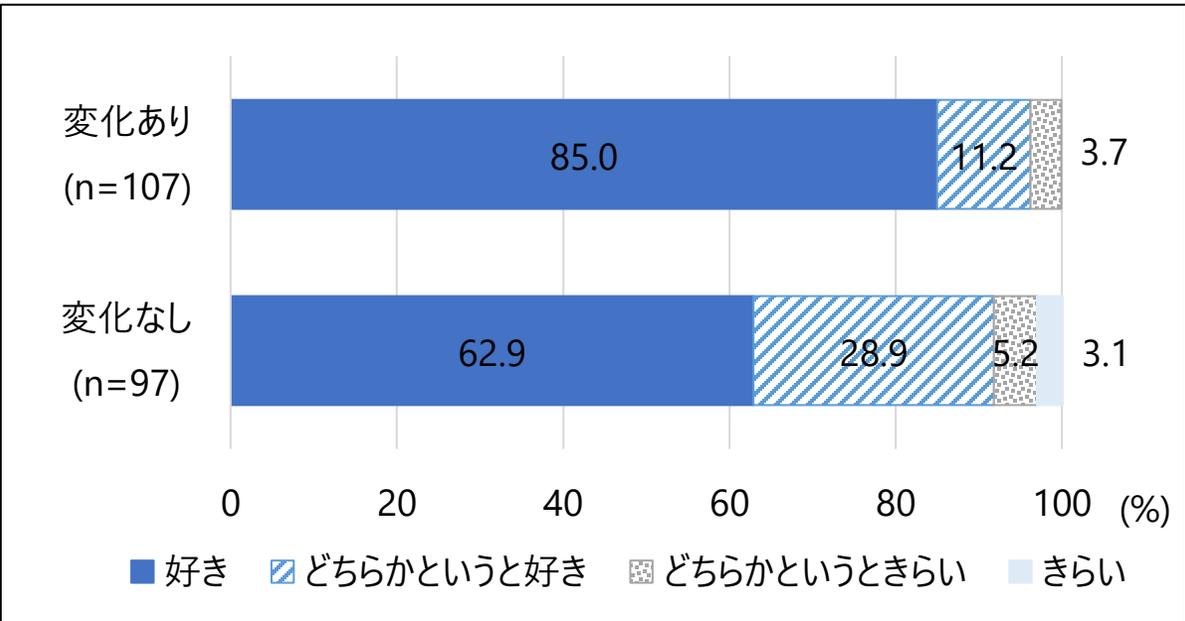


2021年度は「体を動かすことは大切だと思った」32.4%が最も高く、「運動・スポーツをしたいと思った」16.2%が続いた。「日常生活の中で体を動かす機会」や「運動・スポーツをする機会が増えた」と回答した割合は2020年度より微増したものの、全体的には低い値であった。

しかし、7項目のうち5項目は2020年度調査よりも高い割合を示し、運動あそび出前講座の実施が保護者の行動や意識の変化に効果をもたらしている。

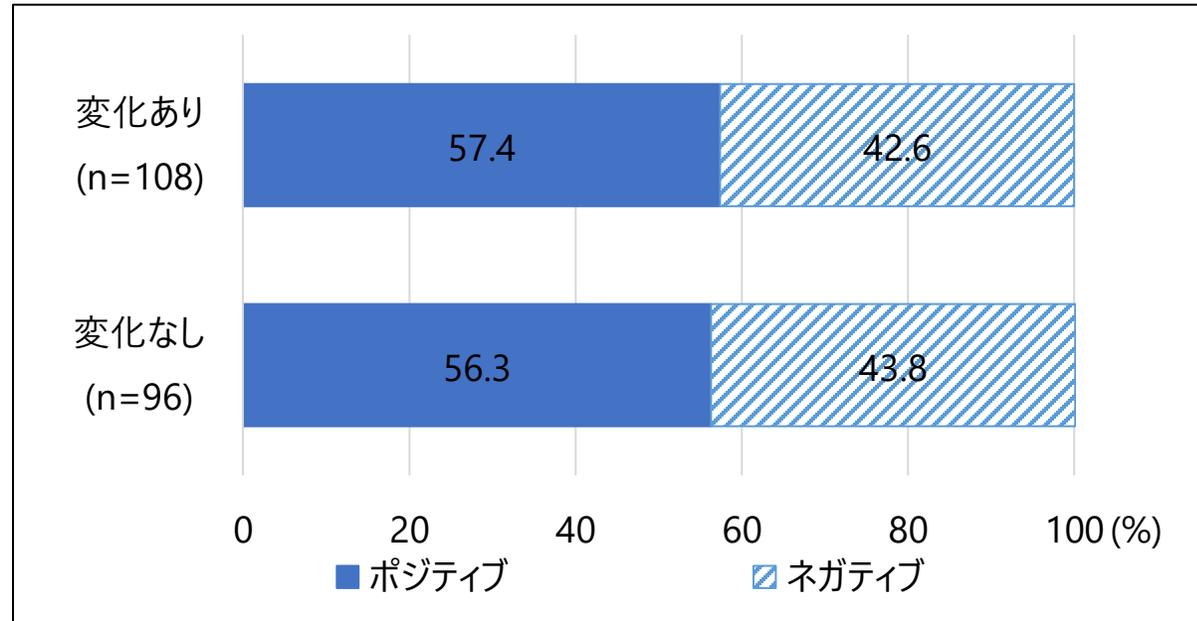
(8) 講座参加後の保護者自身の運動に対する行動や意識の変化(保護者回答)

図表46 変化の有無と子どもの運動・スポーツ好き嫌い



注1) 変化あり: 図表45で「特に変化はなかった」以外を回答した者
 変化なし: 図表45で「特に変化はなかった」と回答した者

図表47 変化の有無と子どもの運動・スポーツに対する気持ち

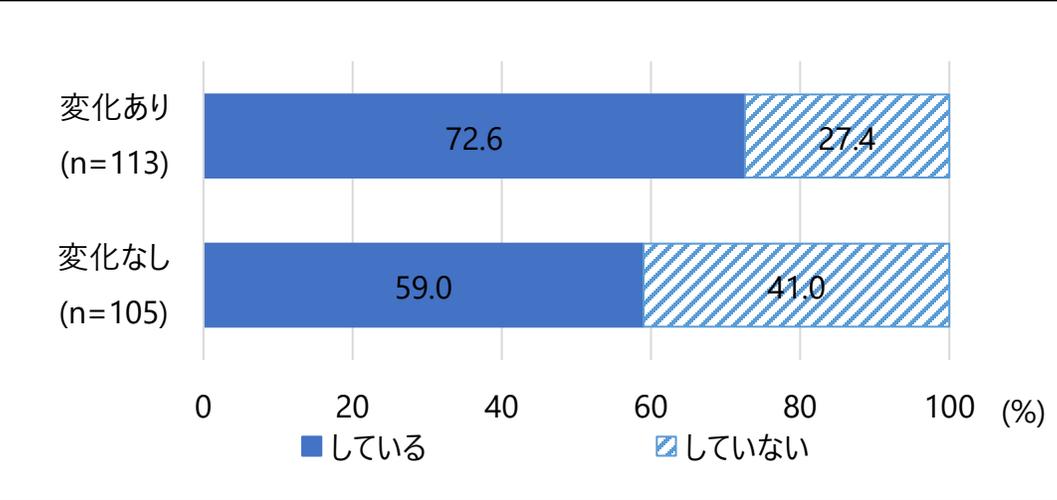


注2) 「ポジティブ」: 図表13のポジティブ項目のみを選択した園児
 「ネガティブ」: 図表13のネガティブ項目を1つ以上選択した園児

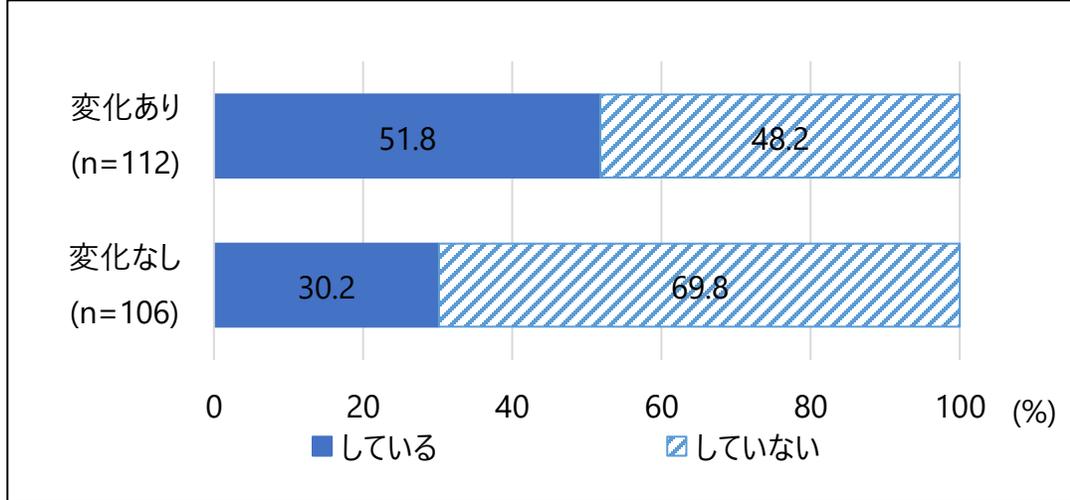
保護者の運動・スポーツに対する行動や意識の変化と子どもの運動・スポーツ好き嫌いの関係を見ると、「好き」の割合は「変化あり」85.0%、「変化なし」62.9%であり、「変化あり」のほうが高い値を示した。運動・スポーツに対する気持ちとの関係を見ると、「ポジティブ」の割合が「変化あり」57.4%、「変化なし」56.3%であった。子どもの運動・スポーツに対する気持ちは変化の有無でほとんど差はみられず、いずれも「ポジティブ」の割合が高い。

(8) 講座参加後の保護者自身の運動に対する行動や意識の変化(保護者回答)

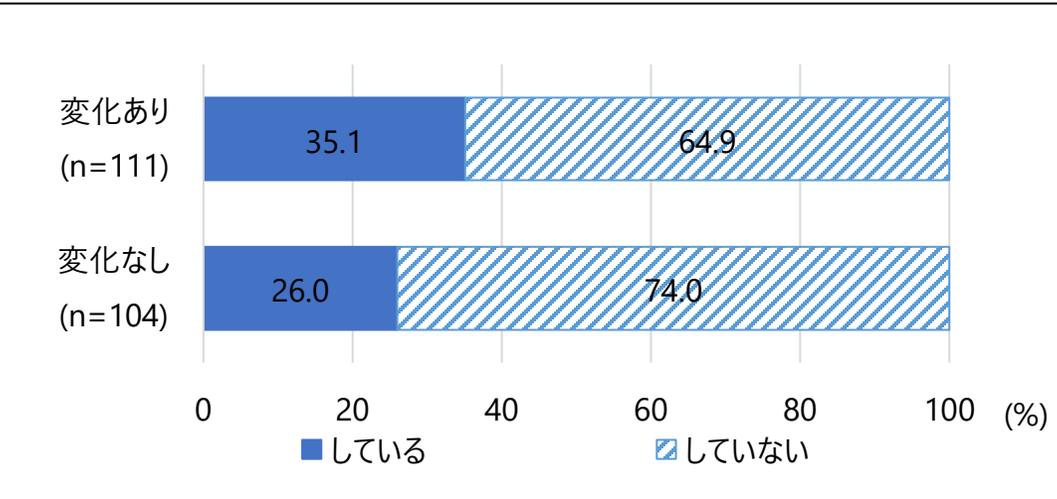
図表48 保護者の行動や意識の変化と家族との実施



図表50 保護者の行動や意識の変化と家族との会話



図表49 保護者の行動や意識の変化と家族との観戦

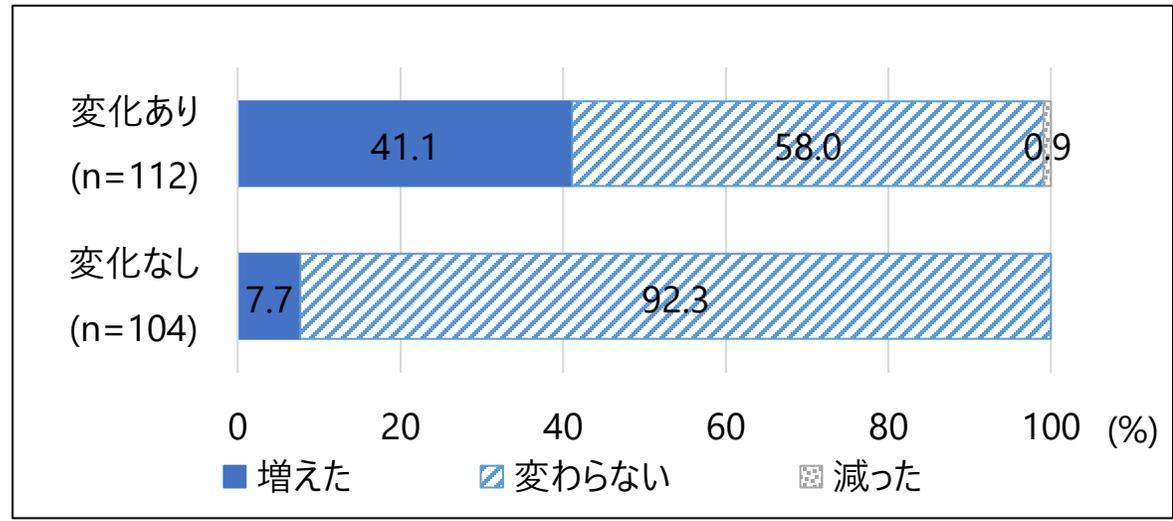


注1) 変化あり: 図表43で「特に変化はなかった」以外を回答した者
 変化なし: 図表43で「特に変化はなかった」と回答した者
 注2) している: 「よくしている」「時々している」の合計
 していない: 「ほとんどしていない」「全くしていない」の合計

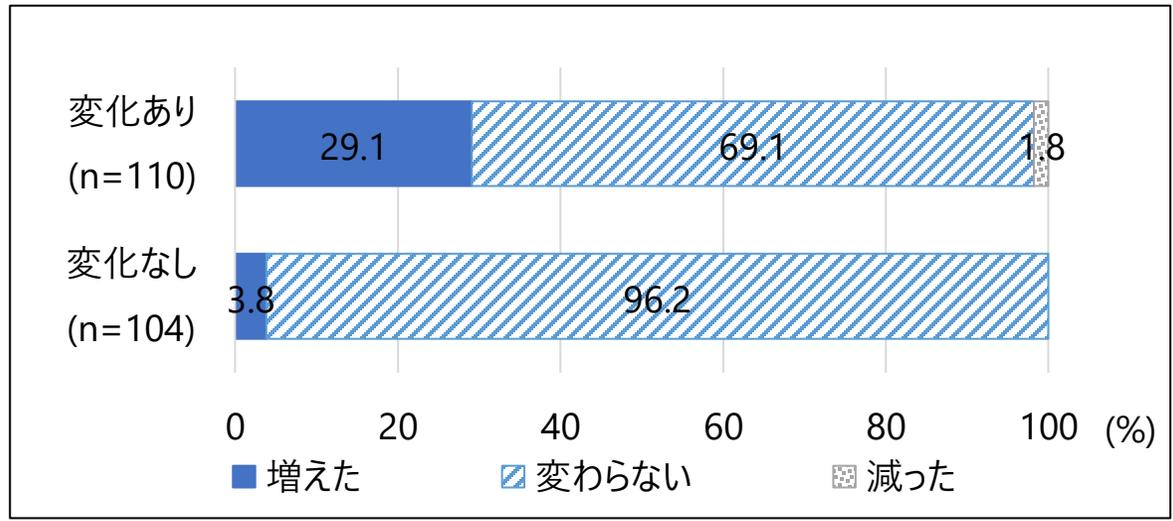
講座参加後に運動・スポーツに対する行動や意識の変化と家庭での運動・スポーツ実施、観戦、会話の状況を示した。実施を「している」の割合は「変化あり」72.6%、「変化なし」59.0%、観戦は「変化あり」35.1%、「変化なし」26.0%、会話は「変化あり」51.8%、「変化なし」30.2%であり、いずれも「変化あり」の割合が高い結果となった。

(8) 講座参加後の保護者自身の運動に対する行動や意識の変化(保護者回答)

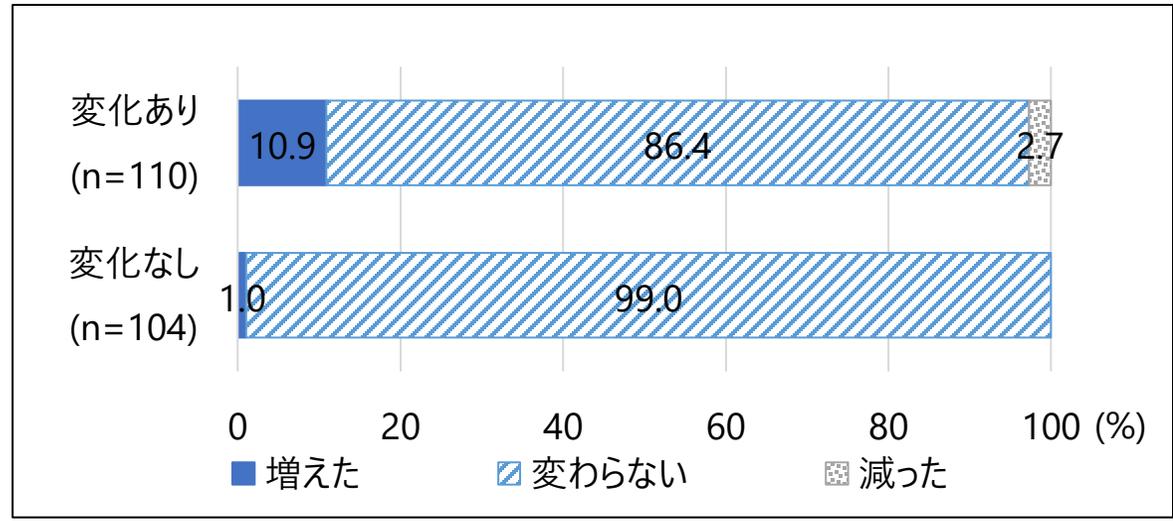
図表51 保護者の行動や意識の変化と家族との実施の増減



図表53 保護者の行動や意識の変化と家族との会話の増減



図表52 保護者の行動や意識の変化と家族との観戦の増減

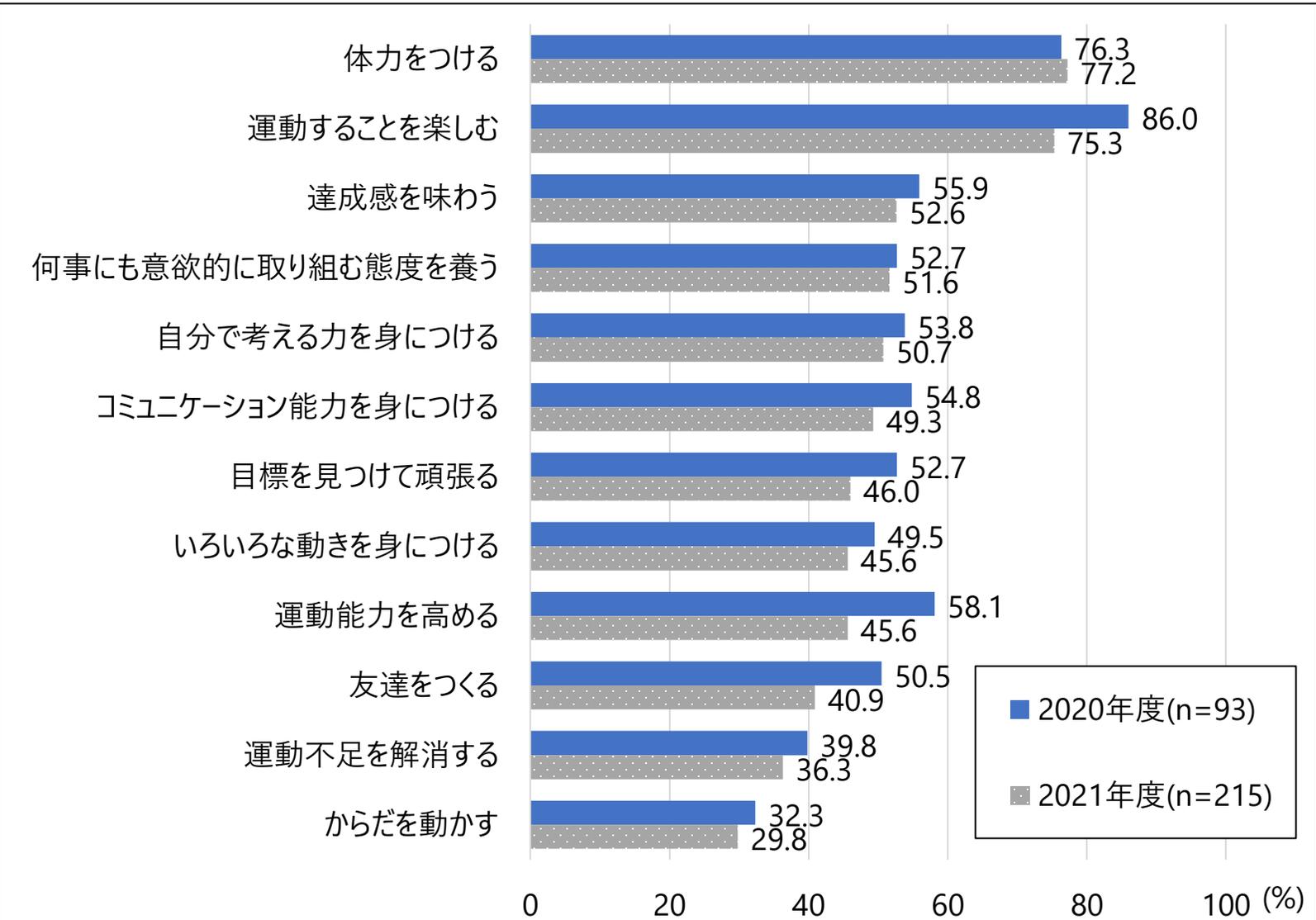


注) 変化あり: 図表43で「特に変化はなかった」以外を回答した者
 変化なし: 図表43で「特に変化はなかった」と回答した者

保護者自身の運動に対する行動や意識の変化と家族との運動・スポーツ実施・観戦・会話の増減の関係について示した。家族との実施が「増えた」と回答した割合は、「変化あり」41.1%、「変化なし」7.7%、観戦は「変化あり」10.9%、「変化なし」1.0%、会話は「変化あり」29.1%、「変化なし」3.8%であった。
 家族との実施と会話の増減は変化の有無による差が特に大きかった。

(9) 子どもが運動・スポーツをすることへの期待(保護者回答)

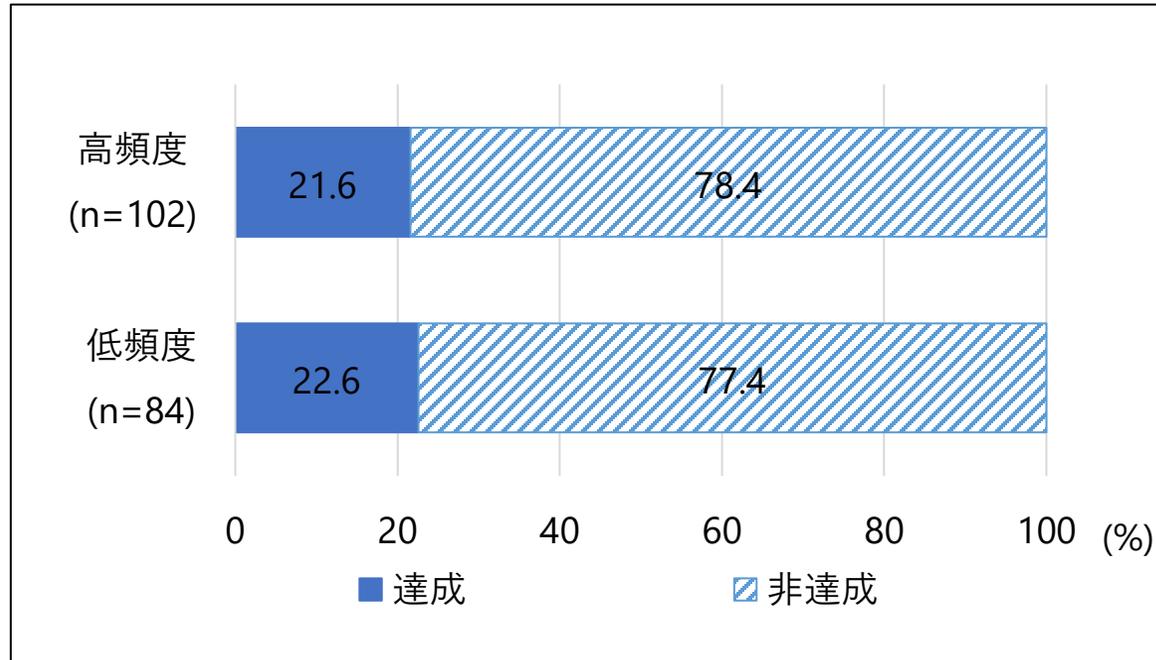
図表54 子どもが運動・スポーツをすることへの期待



2021年度の調査では「体力をつける」が77.2%で最も高く、「運動することを楽しむ」75.3%、「達成感を味わう」52.6%と続く。
 2020年度と比較すると、「運動能力を高める」12.5ポイント差(58.1%→45.6%)、「運動することを楽しむ」10.7ポイント差(86.0%→76.3%)、「友達をつくる」9.6ポイント差(50.5%→40.9%)と、3つの項目で10ポイント近くの差が確認された。

(10) 子どもの生活習慣と運動・スポーツ

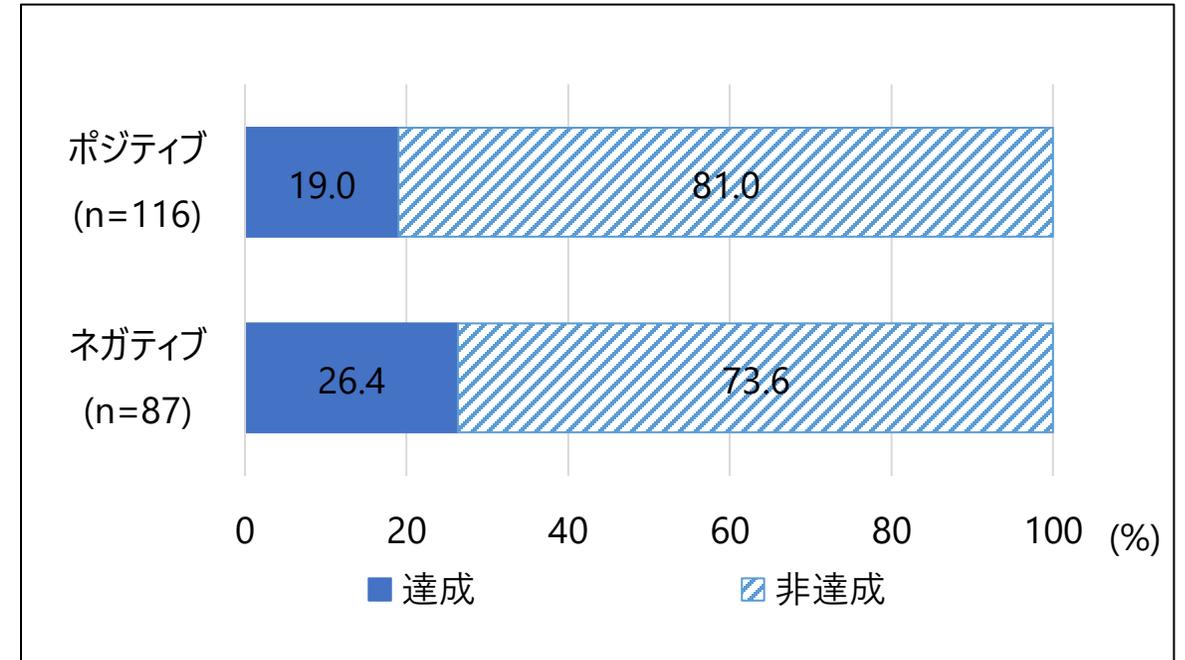
図表55 睡眠・朝食摂取状況と実施頻度



注1) 高頻度: 1週間3回以上または1日1時間以上
 低頻度: 1週間に2回以下かつ1日1時間未満
 出前講座実施前の運動・スポーツ実施回数・時間を示す

注2) 「ポジティブ」: 図表13のポジティブ項目のみを選択した園児
 「ネガティブ」: 図表13のネガティブ項目を1つ以上選択した園児

図表56 睡眠・朝食摂取状況と運動・スポーツへの気持ち



注3) 「達成」: 平日の睡眠時間10時間以上かつ朝食を毎日摂取
 「非達成」: 平日睡眠10時間未満かつ1週間のうち朝食の欠食あり
 本調査の睡眠時間には午睡を含まない
 米国睡眠医学会が推奨する3~5歳児の睡眠時間(10~13時間[午睡含む])を基に分類

子どもの生活習慣を平日の睡眠時間が10時間以上かつ朝食を毎日摂取している「達成」とそれ以外の「非達成」に分類し、実施頻度と運動・スポーツへの気持ちとの関係を示した。高頻度では「達成」21.6%、「非達成」78.4%、低頻度では「達成」22.6%、「非達成」77.4%であり、実施頻度による差はみられなかった。運動・スポーツへの気持ちがポジティブでは「達成」19.0%、「非達成」81.0%、ネガティブでは「達成」26.4%、「非達成」73.6%であった。子どもの生活習慣と運動・スポーツの実施頻度、気持ちとの関連は本調査からは確認されなかった。

■ 子どもが運動・スポーツに対してポジティブな感情を抱く取り組みの実施

調査の結果、運動・スポーツの実施頻度が少ない子どもは多い子どもに比べ、運動・スポーツに対して「疲れる」などネガティブな感情を抱く傾向が確認された。また、運動・スポーツに対して「上手にできる・得意」といったポジティブな感情を抱く子どもはネガティブな感情を抱く子どもより、運動・スポーツが「好き」の割合や実施意欲が高く、運動・スポーツへの気持ちと実施頻度や意向との関連が示された。

子どもが運動・スポーツを楽しみ、もっとやりたいと思うようなプログラムを展開しポジティブな感情を抱いてもらうことにより、運動好きな子どもが増え、実施頻度の増加といった運動習慣の改善につながるのではないだろうか。その際、指導者や保育者、保護者の声かけなど周りの大人の役割は重要になると考えられる。運動・スポーツに対してポジティブな感情を抱く子どもの増加により、運動をしない子や苦手な子の減少につながり、角田市の子どものスポーツの課題のひとつでもある運動・スポーツをする子としない子の二極化の解消が期待される。

■ 保護者への周知や親子講座の実施など家族を巻き込んだ取り組みの実施

家族との運動・スポーツ実施や会話は子どもの実施頻度と関連が示され、本調査の対象である保育所・幼稚園の4、5歳児クラスの子どもにとって家族との運動・スポーツ実施、会話の重要性が明らかになった。さらに、運動あそび出前講座実施後に行動や意識に変化があった保護者の家庭において、子どもと一緒に運動・スポーツを実施したり、会話をする機会の増加するなど、講座実施が家庭での子どもとの運動・スポーツの関わりに変化をもたらした。

以上の結果から、角田市が抱える課題である「スポーツに親しむ家庭環境の醸成」「保護者が過度に怪我を恐れる風潮」の改善に向けて、子どもを対象とした講座に加え、親子で参加できるプログラムの実施や保護者に対する運動あそびの効果を知ってもらうなど家族を巻き込んだ取り組みは効果的であると考えられる。家族を巻き込むことによって、運動・スポーツに対する保護者の理解も深まり、子どもたちが日常的に運動・スポーツに触れる機会が増えるだろう。その結果、子どもの運動習慣の改善に加え、保護者自身の運動・スポーツ実施にもつながることを期待したい。

■ かくだ版アクティブ・チャイルド・プログラムの継続に向けた指導者の確保・育成

本事業は2年度目の実施となり、保育所、幼稚園との連携・協力体制や信頼関係が醸成され、講座の継続的な実施を希望する声も多い。一方、昨年度からの課題でもあった「出前講座で実施するアクティブ・チャイルド・プログラムを総合的にプロデュース・指導できる人材の確保」に向けて、スポネットかくだの構成団体内での指導者経験者が来年度以降保育現場での指導に向けて準備を進めている。具体的には運動あそび出前講座の講師を務める仙台大学教授原田健次氏による保育者を対象とした運動あそび研修会への参加や保育現場での活動も計画されている。

かくだ版アクティブ・チャイルド・プログラムを総合的にプロデュース・指導できる人材が今後増えることにより、出前講座の回数の増加や新たな取り組みの検討などが可能となるだろう。将来的には小学校や市外の保育所・幼稚園への指導者派遣といった、本事業のさらなる拡大も期待される。

今後の展開

■ 子どもの運動・スポーツ習慣、生活習慣の縦断調査に向けた取り組み

「かくだ版アクティブ・チャイルド・プログラム」の運動あそび出前講座の実施によって、子どもたちの運動・スポーツ習慣や生活習慣が今後どのように変化するか把握するため、今年度調査より個人を追跡できるよう調査設計を変更した。本事業の対象者は保育所・幼稚園の4、5歳児クラスの園児であるため、来年度の調査で4歳児クラスの園児の変化を把握でき、1年間の取り組みの成果や運動あそびの効果をより詳細に測定できる。将来的に小学校での運動習慣や生活習慣に関する調査が可能となれば、未就学児から小学校進学後の変化を追える貴重なデータとなり、今後、角田市の子どものスポーツ振興における本事業の役割はさらに大きくなると考えられる。

■ 低年齢クラスへの運動あそび導入に向けた取り組み

本事業は保育所・幼稚園の4、5歳児クラスを対象としているため、保育者向けの事前研修も同クラス担任を中心に行っている。2年度目を終え、3年度目の計画を検討する中で、0～3歳児クラス担任より低年齢を対象とした運動あそび研修会の実施を希望する声があがり、複数園の0～3歳児クラス担任を対象とした研修会実施に向けて準備が進められている。子どもと保護者の運動習慣などの変化以外にも現場から積極的な声があがるといった、保育者の取り組む姿勢にも変化が現れた点は本事業の副次的な効果であると考えられる。また、0～3歳児クラスへ運動あそびの導入が可能となれば、角田市内の未就学児への運動あそびはより定着し、小学校入学前からの運動習慣の確立、保護者の理解促進など多くの効果が期待できる。一方、身体的な月齢差の大きい0～3歳児への運動あそび導入に対する課題や導入の目的などを明確にしたうえで取り組むことが求められるだろう。

■ 事業継続に向けた体制の強化と行政による予算化の継続

来年度からは本事業の運営主体であるスポネットかくだの構成団体である(公財)角田市地域振興公社、スポコムかくだ、(株)フクシ・エンタープライズの3者が「かくだスポーツビレッジ運営共同企業体」として、総合体育館や屋内温水プールなど角田市のスポーツ施設が集まる「かくだスポーツビレッジ」の指定管理者となり、これまで生涯学習課が担っていた事務局機能の一部を受け持つなどスポネットかくだ全体の事業継続に向けて体制の強化が図られる。本事業においても運動あそび出前講座の継続に向けた指導者の確保・育成が計画され、さらには未就学児を対象とした新たなプログラムの展開が期待される。また、令和4年3月に策定された「角田市第6次長期総合計画」の「スポーツによるまちづくり」の項に本事業を含めたスポネットかくだの取り組みについての記述が掲載されたり、行政による予算化の継続も検討されたりと市からの期待も大きいと考えられる。

中長期的な展望

■ 幼保小中の連携による子どもの運動・スポーツ環境の充実化

角田市では子どもの運動・スポーツへの取り組みとして本事業に加え、中学校の運動部活動改革を行っているが、小学生を対象とした事業は展開されていない。本事業が保育所・幼稚園のみの実施にとどまらず、まずは小学生低学年を対象に事業を継続できるよう関係者との連携・協力体制を整え、小学校入学後も子どもたちを継続的にサポートできる仕組みの構築を視野に入れながら今後の事業について検討しても良いだろう。さらに、運動部活動改革の切り口からも、中学校進学を機に変化する子どもの運動・スポーツ環境に対して、よりスムーズな移行ができるよう小学校や地域のスポーツクラブ、スポーツ少年団との連携が重要になるだろう。未就学児から中学生まで継続的にサポートする中長期的な視点を持ちさまざまな事業を展開することにより、市内の子どもたちがいつでもスポーツを楽しめる環境が整い元気な子どもの育成、生涯スポーツを楽しむ基盤づくりにつながるのではないだろうか。

2021年度かくた版アクティブ・チャイルド・プログラム調査報告書

2022年3月発行

発行者 公益財団法人 笹川スポーツ財団

〒107-0052 東京都港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル 3F

TEL 03-6229-5300 FAX 03-6229-5340

E-mail info@ssf.or.jp URL <http://www.ssf.or.jp/>

無断転載、複製および転訳載を禁止します。引用の際は本書が出典であることを明記してください。
本事業は、ポートルースの交付金による日本財団の助成金を受けて実施しました。